



地域コミュニティ  
協議会  
活動事例集



## はじめに

本市が政令指定都市に移行して約2年が経過しました。

この間、「田園とみなとまちが恵みあい、共に育つまち」を基本理念とし、「地域と共に育つ、分権型協働都市」をはじめとする5つの都市像を掲げ、かつてないタイプの政令指定都市をつくりあげていくよう努めてまいりました。

昨秋からの世界同時不況などにより、経済環境が大変厳しくなっていますが、このような状況だからこそ求められているのは、本市の誇るべき特徴である「温かな市民力」や「相互扶助精神」を活かして、市民が主体的にまちづくりに参画し、共助と協働の輪を広げて『ずっと安心して暮らせる新潟』を築き上げることで考えています。

本市は、自治会・町内会や、ボランティア、NPO、市民団体などの活動が各地で根付いており、また、地域における課題を解決するため、概ね小学校区を単位に、地域の自主的な取組のもと、市内全域で97の地域コミュニティ協議会が結成されています。

培われてきた地域の絆を大切にし、市全体の一体感を保ちながら、地域の独自性や地域コミュニティの自立性を尊重した自治を推進していくことが重要であり、持続可能な市民自治の仕組みを市民みんなの力でつくりあげていくことが必要です。

今後も「地域のことは自らが考え、自らが行動する」という住民自治を支える地域コミュニティの充実や活性化を推進するとともに、地域や市民の皆様と行政が協働により、まちづくりに取り組んでまいります。

本冊子は、地域コミュニティ協議会が取り組んでいる活動の一部をご紹介しますものです。地域コミュニティ協議会は、自治会・町内会、PTA、青少年育成協議会、老人クラブ、婦人会、民生児童委員、NPOなどの様々な地域の団体により構成され、地域の特性等を踏まえて色々な分野の活動に取り組んでおられます。

この2年で地域コミュニティ協議会の活動も本格化してきており、新しい取り組みのきっかけづくりや内容の充実など、よりよい活動を行うための参考としてこの事例集をご活用いただき、一層の発展に繋がれば幸いです。

平成21年2月

新潟市長 篠田 昭

※地域コミュニティ協議会別の目次は、  
「目次-7」～「目次-12」をご参照ください。

## 目次（活動分野別）

### 1 防災・防犯

- ・ 自主防災組織の結成及び防災訓練  
葛塚連邦：葛塚ポンポンあしはら国（北区）…………… 1
- ・ 青色防犯パトロール  
葛塚連邦：太田拾國共和国（北区）…………… 2
- ・ 安心・安全な地域づくり  
コミュニティ木崎村（北区）…………… 3
- ・ 地域の安心安全を目指す緊急連絡網の確立活動  
東山の下地区コミュニティ協議会（東区）…………… 4
- ・ 災害と犯罪に強い安心安全なまちづくり活動  
江南小学校区コミュニティ協議会（東区）…………… 5
- ・ 安心安全パトロール活動  
中野山小学校区コミュニティ協議会（東区）…………… 6
- ・ 地域のことは地域で守る安心安全まちづくり活動  
南中野山小学校区コミュニティ協議会（東区）…………… 7
- ・ JR信越本線・白新線紫竹踏切の新設・拡幅に向けた取り組み  
紫竹地域コミュニティ協議会（東区）…………… 8
- ・ 木戸地域の安全・安心なまちづくり活動  
新潟市木戸地域コミュニティ協議会（東区）…………… 9
- ・ 交通安全推進活動  
牡丹山小学校区コミュニティ協議会（東区）…………… 10
- ・ 第4回入舟小学校区自主防災会防災訓練  
入舟小学校区コミュニティ協議会（中央区）…………… 11
- ・ 栄防災会・防災訓練  
栄小学校区コミュニティ協議会（中央区）…………… 12
- ・ 防災訓練を糧として  
湊校区コミュニティ協議会（中央区）…………… 13
- ・ 白山校区コミュニティ協議会自主防災訓練  
白山校区コミュニティ協議会（中央区）…………… 14
- ・ 礎地域自主防災会  
礎地域コミュニティ協議会（中央区）…………… 15
- ・ 「安心・安全なまちづくり」地域の安全・環境パトロール活動  
浜浦小学校区コミュニティ協議会（中央区）…………… 16
- ・ 犯罪から地域を守ろうパトロール活動  
関屋小学校区コミュニティ協議会（中央区）…………… 17
- ・ 防災運動会を取り入れての防災訓練  
有明台小学校区コミュニティ協議会（中央区）…………… 18

・ 烏屋野校区自主防災会	
烏屋野校区コミュニティ協議会（中央区）	19
・ 収容避難所運営組織づくり事業	
上山校区コミュニティ協議会（中央区）	20
・ 女池校区自主防災会活動	
女池校区コミュニティ協議会（中央区）	21
・ 地域住民の防災・防犯意識を高める安心安全なまちづくり活動	
上所校区コミュニティ協議会（中央区）	22
・ 自主防災会	
笹口校区コミュニティ協議会（中央区）	23
・ 総合防災訓練	
山潟地区コミュニティ協議会（中央区）	24
・ 亀田西小学校区合同防災訓練	
亀田西小学校区コミュニティ協議会（江南区）	25
・ 安心・安全地域づくり活動事業（小合地域自主防災協議会）	
小合地域コミュニティ協議会（秋葉区）	26
・ 安心・安全なまちづくり活動	
山の手コミュニティ協議会（秋葉区）	27
・ 住民総出のまちづくり	
坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会（西区）	28
・ 防災図上訓練	
五十嵐小学校区コミュニティ協議会（西区）	29
・ 立仏校区防災訓練	
立仏校区ふれあい協議会（西区）	30
・ 通学道路・一般道路の安全点検	
山田校区ふれあい協議会（西区）	31
・ 中之口地区総合防災訓練	
中之口地区コミュニティ協議会（西蒲区）	32

## 2 子育て・教育

・ ゲストティーチャー地域講座	
松浜地区コミュニティ協議会（北区）	33
・ 家庭と地域との連携による子育て事業「家族で食卓を囲んで」	
山の下地区コミュニティ協議会（東区）	34
・ 合併建設計画事業における保育園用地の選定の取り組み	
横越コミュニティ協議会（江南区）	35
・ 地域が見守る青少年健全育成	
荻川コミュニティ振興協議会（秋葉区）	36
・ 文化講演会	
大通コミュニティ協議会（南区）	37

・「こぼとの会」の子育て支援活動	
西内野コミュニティ協議会（西区）	38
・子育て支援事業「東青山すくすく広場」	
東青山小学校区コミュニティ協議会（西区）	39
・海水から塩を作ろう	
角田地区コミュニティ協議会（西蒲区）	40

### 3 健康・福祉

・桃山地区元気な活力ある世代創出事業（三世代交流）	
桃山校区コミュニティ協議会（東区）	41
・下山地区スポーツフェスティバル（下山オリンピック）	
下山地区コミュニティ協議会（東区）	42
・地域の茶の間	
東中野山小学校区コミュニティ協議会（東区）	43
・大形ふれあいウォークラリー	
大形地区コミュニティ協議会（東区）	44
・ふれあい給食活動	
南万代小学校区コミュニティ協議会（中央区）	45
・福祉施設等研修視察会	
万代地域コミュニティ協議会（中央区）	46
・長嶺ふれあい給食会活動	
長嶺地域コミュニティ協議会（中央区）	47
・講演会「老化は脚から」	
紫竹山校区コミュニティ協議会（中央区）	48
・敬老会	
両川地区コミュニティ協議会（江南区）	49
・小林ふれあい地域づくり事業「こぼふれ」	
小林コミュニティ協議会（南区）	50
・介護予防活動「うきうき元気塾」	
真砂小学校区コミュニティ協議会（西区）	51
・救急法講習会と水辺公園ウォーキングの実施	
黒崎南ふれあい協議会（西区）	52
・平成20年度漆山地区敬老祭	
漆山地域コミュニティ協議会（西蒲区）	53

### 4 環境・廃棄物

・不法投棄防止活動	
南浜地区コミュニティ協議会（北区）	54
・地域環境整備活動	
濁川地区コミュニティ協議会（北区）	55

・善堀川再生活動	
葛塚連邦：やまたい国（北区）	56
・はさ木と花の岡方街道事業	
岡方地区コミュニティ委員会（北区）	57
・曾野木地区一斉清掃	
曾野木地区地域づくり協議会（江南区）	58
・ホタル飛び交う一番堀をめざして	
坂井輪中学校区コミュニティ協議会（西区）	59

## 5 文化・歴史

・にいつの史跡を訪ね歩こう その2「石油の発祥地を訪ねる」	
新津中央コミュニティ協議会（秋葉区）	60
・芸能祭	
阿賀浦コミュニティ協議会（秋葉区）	61
・ふるさと塾	
金津コミュニティ振興協議会（秋葉区）	62
・「地元学」小須戸町並み景観まちづくり研究会支援事業	
小須戸小学校区コミュニティ協議会（秋葉区）	63
・白根のたから発信プラン事業	
白根コミュニティ協議会（南区）	64
・郷土・黒埼の今昔を聞く会	
大野校区ふれあい協議会（西区）	65
・まき夏まつり	
巻地区まちづくり協議会（西蒲区）	66
・北国街道のPRと環境美化	
峰岡地区コミュニティ協議会（西蒲区）	67
・西川まつり傘鉾人形製作後継者育成事業	
西川地域コミュニティ協議会（西蒲区）	68

## 6 地域交流

・長浦めぐりウォーキング	
長浦コミュニティ委員会（北区）	69
・みんなで作り上げた伝統行事「早通ふるさとまつり」	
早通地域コミュニティ委員会（北区）	70
・地域内の交流事業	
豊照地区コミュニティ協議会（中央区）	71
・世代間交流事業	
鏡淵小学校区コミュニティ協議会（中央区）	72
・広報誌「コミ協だより にいがた」発行事業	
新潟地区コミュニティ協議会（中央区）	73

・ 栗ノ木川さくら祭り	
沼垂小学校区コミュニティ協議会（中央区）	74
・ 散策ふれあい会	
亀田小学校区コミュニティ協議会（江南区）	75
・ 地域を知ろう、いい汗流そう。歩け歩け交流	
早通小学校区コミュニティ協議会（江南区）	76
・ ふれ愛コンサート事業	
亀田東小学校区コミュニティ協議会（江南区）	77
・ 大江山地区「地域の茶の間」活動	
大江山地区コミュニティ協議会（江南区）	78
・ 「賽の神」による世代間交流事業	
新津西部コミュニティ推進協議会（秋葉区）	79
・ 満日地域「芸能祭・文化祭」ふれあい交流活動	
満日コミュニティ協議会（秋葉区）	80
・ 新津島盆踊り大会	
新津東部コミュニティ協議会（秋葉区）	81
・ 新関ふれあいまつり	
新関コミュニティ協議会（秋葉区）	82
・ スポーツ地域交流活動	
新飯田コミュニティ協議会（南区）	83
・ 2008茨曾根夏祭り	
コミュニティ茨曾根（南区）	84
・ 庄瀬農村公園祭り	
庄瀬地域コミュニティ協議会（南区）	85
・ 地域でふれ愛まショー	
臼井地区コミュニティ協議会（南区）	86
・ 農産物を活用した地区民地域交流活動	
大郷地区コミュニティ協議会（南区）	87
・ 世代間交流と地域の伝統行事継承活動	
鷲巻地区コミュニティ協議会（南区）	88
・ 地域活性化事業 地域交流イベント（あやめまつり）	
根岸地域コミュニティ協議会（南区）	89
・ 味方地区ふるさと納涼まつり	
味方地区コミュニティ協議会（南区）	90
・ 北海道月形町&新潟市月潟地区児童交流会	
月潟コミュニティ協議会（南区）	91
・ 内野地区市民大運動会	
内野コミュニティ協議会（西区）	92
・ 瑞穂祭	
コミュニティ中野小屋（西区）	93
・ 佐潟まつり「こどもとうろう」	
コミュニティ佐潟（西区）	94

・有明ふれあい夏まつり	
青山小学校区コミュニティ協議会（西区）	95
・地域ふれあいサロン「七夕祭り」	
小針小学校区コミュニティ協議会（西区）	96
・「いろはの里」盆踊り大会	
松野尾地域コミュニティ協議会（西蒲区）	97
・自然との共生「堂と野外コンサート」	
岩室地域コミュニティ協議会（西蒲区）	98
・かもん！カモねぎまつり	
潟東地域コミュニティ協議会（西蒲区）	99



※活動分野別の目次は、  
「目次－1」～「目次－6」をご参照ください。

## 目次（コミュニティ協議会別）

### 北 区

- ・葛塚連邦：葛塚ポンポンあしはら国  
自主防災組織の結成及び防災訓練…………… 1
- ・葛塚連邦：太田拾國共和国  
青色防犯パトロール…………… 2
- ・コミュニティ木崎村  
安心・安全な地域づくり …………… 3
- ・松浜地区コミュニティ協議会  
ゲストティーチャー地域講座…………… 33
- ・南浜地区コミュニティ協議会  
不法投棄防止活動…………… 54
- ・濁川地区コミュニティ協議会  
地域環境整備活動…………… 55
- ・葛塚連邦：やまたい国  
善堀川再生活動…………… 56
- ・岡方地区コミュニティ委員会  
はさ木と花の岡方街道事業…………… 57
- ・長浦コミュニティ委員会  
長浦めぐりウォーキング…………… 69
- ・早通地域コミュニティ委員会  
みんなで作り上げた伝統行事「早通ふるさとまつり」…………… 70

### 東 区

- ・東山の下地区コミュニティ協議会  
地域の安心安全を目指す緊急連絡網の確立活動…………… 4
- ・江南小学校区コミュニティ協議会  
災害と犯罪に強い安心安全なまちづくり活動…………… 5
- ・中野山小学校区コミュニティ協議会  
安心安全パトロール活動…………… 6
- ・南中野山小学校区コミュニティ協議会  
地域のことは地域で守る安心安全まちづくり活動…………… 7
- ・紫竹地域コミュニティ協議会  
JR 信越本線・白新線紫竹踏切の新設・拡幅に向けた取り組み …………… 8
- ・新潟市木戸地域コミュニティ協議会  
木戸地域の安全・安心なまちづくり活動 …………… 9
- ・牡丹山小学校区コミュニティ協議会  
交通安全推進活動…………… 10

・ 山の下地区コミュニティ協議会	
家庭と地域との連携による子育て事業「家族で食卓を囲んで」	34
・ 桃山校区コミュニティ協議会	
桃山地区元気な活力ある世代創出事業（三世代交流）	41
・ 下山地区コミュニティ協議会	
下山地区スポーツフェスティバル（下山オリンピック）	42
・ 東中野山小学校区コミュニティ協議会	
地域の茶の間	43
・ 大形地区コミュニティ協議会	
大形ふれあいウォークラリー	44

## 中 央 区

・ 入舟小学校区コミュニティ協議会	
第4回入舟小学校区自主防災会防災訓練	11
・ 栄小学校区コミュニティ協議会	
栄防災会・防災訓練	12
・ 湊校区コミュニティ協議会	
防災訓練を糧として	13
・ 白山校区コミュニティ協議会	
白山校区コミュニティ協議会自主防災訓練	14
・ 礎地域コミュニティ協議会	
礎地域自主防災会	15
・ 浜浦小学校区コミュニティ協議会	
「安心・安全なまちづくり」地域の安全・環境パトロール活動	16
・ 関屋小学校区コミュニティ協議会	
犯罪から地域を守ろうパトロール活動	17
・ 有明台小学校区コミュニティ協議会	
防災運動会を取り入れての防災訓練	18
・ 烏屋野校区コミュニティ協議会	
烏屋野校区自主防災会	19
・ 上山校区コミュニティ協議会	
収容避難所運営組織づくり事業	20
・ 女池校区コミュニティ協議会	
女池校区自主防災会活動	21
・ 上所校区コミュニティ協議会	
地域住民の防災・防犯意識を高める安心安全なまちづくり活動	22
・ 笹口校区コミュニティ協議会	
自主防災会	23
・ 山潟地区コミュニティ協議会	
総合防災訓練	24

・南万代小学校区コミュニティ協議会 ふれあい給食活動	45
・万代地域コミュニティ協議会 福祉施設等研修視察会	46
・長嶺地域コミュニティ協議会 長嶺ふれあい給食会活動	47
・紫竹山校区コミュニティ協議会 講演会「老化は脚から」	48
・豊照地区コミュニティ協議会 地域内の交流事業	71
・鏡淵小学校区コミュニティ協議会 世代間交流事業	72
・新潟地区コミュニティ協議会 広報誌「コミ協だより にいがた」発行事業	73
・沼垂小学校区コミュニティ協議会 栗ノ木川さくら祭り	74

## 江 南 区

・亀田西小学校区コミュニティ協議会 亀田西小学校区合同防災訓練	25
・横越コミュニティ協議会 合併建設計画事業における保育園用地の選定の取り組み	35
・両川地区コミュニティ協議会 敬老会	49
・曾野木地区地域づくり協議会 曾野木地区一斉清掃	58
・亀田小学校区コミュニティ協議会 散策ふれあい会	75
・早通小学校区コミュニティ協議会 地域を知ろう、いい汗流そう。歩け歩け交流	76
・亀田東小学校区コミュニティ協議会 ふれ愛コンサート事業	77
・大江山地区コミュニティ協議会 大江山地区「地域の茶の間」活動	78

## 秋 葉 区

・小合地域コミュニティ協議会 安心・安全地域づくり活動事業（小合地域自主防災協議会）	26
・山の手コミュニティ協議会 安心・安全なまちづくり活動	27

・荻川コミュニティ振興協議会 地域が見守る青少年健全育成	36
・新津中央コミュニティ協議会 にいつの史跡を訪ね歩こう その2「石油の発祥地を訪ねる」	60
・阿賀浦コミュニティ協議会 芸能祭	61
・金津コミュニティ振興協議会 ふるさと塾	62
・小須戸小学校区コミュニティ協議会 「地元学」小須戸町並み景観まちづくり研究会支援事業	63
・新津西部コミュニティ推進協議会 「賽の神」による世代間交流事業	79
・満日コミュニティ協議会 満日地域「芸能祭・文化祭」ふれあい交流活動	80
・新津東部コミュニティ協議会 新津島盆踊り大会	81
・新関コミュニティ協議会 新関ふれあいまつり	82

## 南 区

・大通コミュニティ協議会 文化講演会	37
・小林コミュニティ協議会 小林ふれあい地域づくり事業「こばふれ」	50
・白根コミュニティ協議会 白根のたから発信プラン事業	64
・新飯田コミュニティ協議会 スポーツ地域交流活動	83
・コミュニティ茨曾根 2008茨曾根夏祭り	84
・庄瀬地域コミュニティ協議会 庄瀬農村公園祭り	85
・白井地区コミュニティ協議会 地域でふれ愛まショー	86
・大郷地区コミュニティ協議会 農産物を活用した地区民地域交流活動	87
・鷲巻地区コミュニティ協議会 世代間交流と地域の伝統行事継承活動	88
・根岸地域コミュニティ協議会 地域活性化事業 地域交流イベント（あやめまつり）	89

・味方地区コミュニティ協議会 味方地区ふるさと納涼まつり	90
・月潟コミュニティ協議会 北海道月形町&新潟市月潟地区児童交流会	91

## 西 区

・坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会 住民総出のまちづくり	28
・五十嵐小学校区コミュニティ協議会 防災図上訓練	29
・立仏校区ふれあい協議会 立仏校区防災訓練	30
・山田校区ふれあい協議会 通学道路・一般道路の安全点検	31
・西内野コミュニティ協議会 「こぼとの会」の子育て支援活動	38
・東青山小学校区コミュニティ協議会 子育て支援事業「東青山すくすく広場」	39
・真砂小学校区コミュニティ協議会 介護予防活動「うきうき元気塾」	51
・黒崎南ふれあい協議会 救急法講習会と水辺公園ウォーキングの実施	52
・坂井輪中学校区コミュニティ協議会 ホテル飛び交う一番堀をめざして	59
・大野校区ふれあい協議会 郷土・黒崎の今昔を聞く会	65
・内野コミュニティ協議会 内野地区市民大運動会	92
・コミュニティ中野小屋 瑞穂祭	93
・コミュニティ佐潟 佐潟まつり「こどもとうろう」	94
・青山小学校区コミュニティ協議会 有明ふれあい夏まつり	95
・小針小学校区コミュニティ協議会 地域ふれあいサロン「七夕祭り」	96

## 西 蒲 区

・中之口地区コミュニティ協議会 中之口地区総合防災訓練	32
--------------------------------	----

・角田地区コミュニティ協議会	
海水から塩を作ろう	40
・漆山地域コミュニティ協議会	
平成20年度漆山地区敬老祭	53
・巻地区まちづくり協議会	
まき夏まつり	66
・峰岡地区コミュニティ協議会	
北国街道のPRと環境美化	67
・西川地域コミュニティ協議会	
西川まつり傘鉾人形製作後継者育成事業	68
・松野尾地域コミュニティ協議会	
「いろはの里」盆踊り大会	97
・岩室地域コミュニティ協議会	
自然との共生「蛍と野外コンサート」	98
・潟東地域コミュニティ協議会	
かもん！カモねぎまつり	99

地域コミュニティ協議会名称

## 葛塚連邦：葛塚ポンポンあしはら国

活動名称

自主防災組織の結成及び防災訓練

世帯数

約2,520世帯

## 活動内容

葛塚ポンポンあしはら国は、世帯数で見た自主防災組織の結成率が、北区全体の53%に対して33%と、地域内でもその低さを課題としていましたが、世帯数が50世帯に満たない自治会が半数近くあるため、単一自治会での結成が困難な状況でした（全20自治会のうち結成5自治会）。

近年、県内でも自然災害が多発していることから結成の機運が高まり、当協議会の地域安全部会及び総務広報部会が中心となって全自治会での結成に取り組むこととなりました。

合同組織づくりに向けた役員会議を繰り返し開催し理解を深めていきました。この結果、未結成の15自治会のうち1自治会は単独で、14自治会は合同で「葛塚ポンポンあしはら国防災会」を結成しました。これにより、当地区の結成率は100%となりました。

平成20年6月22日（日）には、地域内20の全自治会が参加し、合同自主防災訓練を実施しました。役員が作成した、訓練マニュアルに従い、第1次避難所までの避難及び葛塚小学校での体験型訓練が行われました。また、救急救命訓練では、消防署職員の指導のもと、地域内の救急・救命上級資格者のサポートにより大勢の方に心肺蘇生訓練等を体験していただきました。

## 【訓練内容】

- 住民避難・報告訓練
- 非常食炊き出し訓練
- 救急救命、消火訓練
  - ・応急救護・心肺蘇生・初期消火訓練



訓練の様子

## 実績・効果

合同自主防災訓練参加人数：625名

この防災訓練で、組織内での業務分担や相互の連携など、災害避難時に必要とされる行動を体験することができ、防災資材、応急救護用品などの知識及び取扱い方法についても理解を深めることができました。単一の自主防災組織だけでなく地域全体での活動は「地域力」を高めるためには重要なことだと思われれます。

今後も合同訓練を繰り返し行うことによって、地域の一体感の醸成と防災意識の啓発に努めていきます。

地域コミュニティ協議会名称

## 葛塚連邦：太田拾國共和国

活動名称

青色防犯パトロール

世帯数

約470世帯

## 活動内容

全国各地で児童生徒の連れ去り事件が発生していることに危機感を持ち、平成17年2月から地域内パトロールを実施しています。当初月1回、下校時間と夜間に行っていましたが、その後月2回になりました。

当初は、自治会長とコミュニティ推進員数名で行っていたパトロールでしたが、その後、各自治会推選のパトロール隊員や太田小学校教育振興会（PTA）の役員に参加を呼びかけ、しっかりした組織になりました。

平成20年8月からは、市から自主防犯パトロール団体の委嘱を受け、青色回転灯装備車2台によるパトロールを実施しています。

昼の下校パトロールは、おもに自治会長が担当し、夜間パトロールは、パトロール隊員、太田小学校教育振興会役員、コミュニティ推進員が担当しています。

このパトロール活動で特徴的なことは、パトロールに出かける前と終了後に参加者によるミーティングが行われることです。特に、地域内の安心安全にかかわることについての情報交換や意見交換の場になっています。

いままでに話し合われたおもなものでは、「通学路なのに防犯灯がない」「放水路脇の道路にガードレールがなく危険」「高速道路下のボックス付近に粗大ゴミや有害図書などの不法投棄や落書きが後を絶たない」などがあります。

このような話し合いの中から、パトロールしながら自分たちで処理できない大量のごみや落書き、通学路の防犯灯設置などについては、市の担当課に処理や整備をお願いしています。

「自分たちでできることは自分たちの手で」のボランティア意識の高揚に努めながら、行政との協働による安全なまちづくりを進めています。



パトロールで落書きを発見

## 実績・効果

パトロール隊員登録数57名。

パトロール隊を組織したことにより、地域内で緊急な事案が発生したとき、すぐ対応ができるようになりました。地域の安心安全面についてお互いに関心をもつことができるようになってきています。また、自分たちでできることは自分たちで処理しようという意識ができています。



地域コミュニティ協議会名称

## コミュニティ木崎村

活動名称

安心・安全な地域づくり

世帯数

約3,000世帯

## 活動内容

近年国内の治安情勢は犯罪の多発等、安心・安全が損なわれています。地域内においても不審者の出没等東港周辺を取り巻く環境は外国人の犯罪・盗難事件等が重なり安心・安全が懸念されてきました。このため、18年度から防犯部会の防犯・交通安全対策を重点事項として地域の日常活動安全確保のため活動を展開しています。

また、小中学生の登下校時を中心に、青色回転灯装備車による地区内の防犯パトロールを月2回実施し、さらに東港周辺セーフティネット地域に指定されたため、市・警察・コミュニティが中心となりパトロールを強化し（月3回）犯罪等の抑止に努力しています。

<主な活動内容>

- ① 春・秋の交通安全週間に合わせて、交通安全持経観音祈願供養祭並びに交通安全人間のぼり旗作戦の実施。(年2回)
- ② 青色回転灯装備車による地区内防犯パトロールを毎月2回実施。
- ③ 東港周辺セーフティネット地域を青色回転灯装備車により市・警察・コミュニティが中心になって毎月3回程度実施。
- ④ 中学2年生を対象に防犯標語を募集し、優秀作品5点を看板作製し、各自治会に配布し、掲示。(毎年5枚作成し、各自治会内に設置)
- ⑤ 小学生を対象に、防犯ブザーを斡旋。



交通安全 人間のぼり旗作戦



中学2年生の防犯標語優秀作品で看板作成

## 実績・効果

地区内の全自治会参加による、春・秋の交通安全持経観音祈願供養祭並びに交通安全人間のぼり旗作戦による啓発活動をねばり強く実施し、交通安全への関心が高まっています。

また、青色回転灯装備車による東港周辺パトロールでは、外国人向けに3カ国語（英語・ロシア語・ウルドゥー語）による防犯広報を実施したことにより、犯罪件数が大幅な減少傾向にあり、顕著な実績が現れています。

地域コミュニティ協議会名称

# 東山の下地区コミュニティ協議会

活動名称

地域の安心安全を目指す緊急連絡網の確立活動

世帯数

約6,160世帯

## 活動内容

平成20年春に東山の下地区で放火事件が発生し、防犯対策に緊急連絡網が必要と考え、区内32自治会・町内会に警戒意識を高めてもらうため、別事案も含め2回ほど緊急電話連絡を試みましたが、約半数が不在等で連絡が取れず、今後その効果は期待出来ない事を認識しました。

これをきっかけに、留守でも効率のよい連絡が取れる方法として、ファクシミリ連絡網が最適ではないかと話し合い、会長会議に諮り、自治会・町内会を4ブロックに分けてファクシミリ連絡網を構築することに賛同を得ました。

自家用のファクシミリを連絡網にも併用して提供して下さる自治会・町内会も含め、開設したところはまだ全体の60%ほどですが、今後の必要性を認識してもらい、100%開設を目指して、身近な出来事や、子どもに対する犯罪等の警戒情報などをいち早く配信し、全自治会・町内会であらゆる情報を共有して、地域の安心・安全、地域交流に役立てられるように努力していかねばならないと考えています。なお、機器未設置の自治会・町内会は、今後、ブロック長が順次設置していく予定です。

平成20年11月に開催された、東区自治会長・町内会長に感謝の集いの講演のなかで、神戸市内のある自治連合会の事例として、2日間で全町内に連絡が行き渡り、団結し、防犯・防災に効果をあげているとお話を聞き、東山の下地区コミュニティ協議会が目指すファクシミリ連絡網構築の必要性・重要性を改めて認識したところです。

## 実績・効果

ファクシミリ連絡網の開始により、天候不順な時期には特にその効果が発揮されました。留守宅にも連絡でき、区役所からの緊急連絡も受信次第すぐに配信できたため、対応が早くなりました。また、校区内の子どもに対する痴漢などの犯罪情報も配信して警戒を促し、地域全体で対策を強化することができたことから、役員の安心感が得られました。今後も多岐にわたる情報を広く地域住民の皆様と共有できるよう努力し、安全で住みよい地域を目指したいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

## 江南小学校区コミュニティ協議会

活動名称

災害と犯罪に強い安心安全なまちづくり活動

世帯数

約3,040世帯

## 活動内容

江南小学校は、東区江南に位置し、平成19年4月、新潟市が政令指定都市へ移行したのに伴い、江南小学校区コミュニティ協議会が発足、傘下に生活環境・福祉厚生・安心安全・教育文化の4部会が設置されました。

近年は、地震・風水害等の大規模災害が頻発、一方では児童・生徒を狙った略取、連れ去り事件等が多発するなど「安全」が脅かされている現状を背景に、当コミュニティ協議会安心安全部会では「地域のことは、地域で守る」という基本的な考えから、自治・町内会（以下、自治会等という）の協力を得て災害、犯罪に強いまちづくりを目指すことにしました。

その一環として、本庁・東区役所職員を講師に招き、自主防災組織及び安心安全パトロール隊結成等に向けた「出前講座」を開催し、自治会等が取り組みやすい環境づくりに努めました。

現在は、地域の防犯、登下校時の児童・生徒の事故防止を図るため、町内・通学路などの交通安全、見守りなどを重点に日常的な巡回や江南小学校からの協力要請に基づく緊急的な巡視を実施し、地域の皆さんから真に信頼され、親しまれるパトロール隊に向け鋭意努力しております。



「秋の交通安全運動」の開始日 平成20年9月22日(月)  
朝7:00 安心安全パトロール隊集合



江南小学校・石山中学校の児童・生徒の登校時の安全確保の為、校区内交差点で活動

## 実績・効果

当コミュニティ協議会は、8自治会、6町内会の14自治会等で組織され、昨年4月の時点で自主防災組織結成5自治会、パトロール隊結成1自治会が、「出前講座」を開催した結果、現在、自主防災組織結成6、パトロール隊結成9自治会まで拡大。また、パトロールを通して地域住民、子どもたちとの融合により日常の挨拶や会話を交わす人も増えるなど信頼関係が構築されてきています。

一方、防災資機材備蓄庫の建設費や巡回時のベストなどの調達費捻出等で各自治会等は厳しい状況にありますが、引き続き防災・防犯活動の一層の充実に努めて参ります。

地域コミュニティ協議会名称

## 中野山小学校区コミュニティ協議会

活動名称

安心安全パトロール活動

世帯数

約4,500世帯

## 活動内容

中野山小学校周辺は、子どもの多い地域です。小学校は創立130周年を過ぎ、学校に愛着を感じている地域住民が多くいます。

昨今の不審者が出没する社会情勢をみて、平成18年10月より「中野山安心安全パトロール隊」を立ち上げ、小学1年生の下校時に合わせたパトロールを開始しました。

パトロール隊は、各自治会から推薦された人で毎年80人以上で編成しています。平成20年度の登録者は155名です。

学区を東西エリアに分け、毎日1年生の下校時玄関前に集合、各エリア8人：子どもと一緒に通学路を巡回（1組2人以上）しています。巡回の際、子どもはもちろん地域住民と挨拶を交わすことを心がけています。また、年1回以上の研修会も実施してきました。

各班（東エリア5班、西エリア5班）の班長は、毎日巡回日誌を書き、防犯上や交通安全上問題を感じたことはエリア長に報告し他の班に連絡しています。エリア長は、小学校と連絡を密に取ると共に県警のホームページ「不審者情報」を見て必要と感じた都度、便りとして全隊員に配布し巡回の際の参考にしてもらっています。

さらに、臨時に夕暮れ時、隊員の自宅近くで高学年の下校の状況を見守ってもらうこともあります。



## 実績・効果

毎日地域住民の誰かが学校の玄関前に集まり、顔を合わせることで子どもは勿論学校の職員とも顔見知りになり、挨拶を交わしたり情報交換ができるようになりました。

また、子どもとパトロール隊員、パトロール隊員と地域住民が気軽に挨拶するようにもなりました。さらに、ユニホーム姿を地域に見せる効果のためか、県警のホームページの「不審者情報」は当地区内はほとんどなくなりました。

今後、地域住民同士の交流を深める活動や他団体との連携を工夫しながら、より安全な地域を目指したいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

## 南中野山小学校区コミュニティ協議会

活動名称

地域のことは地域で守る安心安全まちづくり活動

世帯数

約3,600世帯

## 活動内容

新興住宅地帯である当地域は都市化の進展や生活形態の変化、価値観の多様化により連帯感の希薄、家庭の孤立化がみられ、犯罪や事故の発生が身近に感じられるようになりました。

そこで、地域の安全は地域で守ろうとの意識が強くなり、防犯、防災部が中心となり、コミュニティ協議会内の各団体に呼びかけ、地域住民の連帯感を呼び起こし一体となって住民の防犯意識の高揚を図っております。

見える犯罪の抑止方策として平成17年10月、自転車による「ながらパトロール」を実施しました。その方策は自転車の前籠に「安心安全パトロール」のステッカーを貼り付け、日常的な買物や用件の際に使用し、地域内のどこにでも目に付くようにして抑止効果を狙いました。当初は250台の自転車でありましたが、毎年協力者が増加し、現在は750台が常時パトロールを実施しています。

また、近年子どもを対象にした凶悪犯罪が発生しており、当地域でも子どもに対し、声かけや腕をつかむなど、不審者による行為が散見されるようになり、地域の子どもの安心安全を図るため、ボランティアパトロール隊の結成を呼びかけ、当初83名の参加者を得て平成20年1月31日、小学校全校児童を対象に隊員と対面式を実施し、翌日から学校を中心に南北に分け低学年を中心に輪番制にしてパトロールを実施しました。この活動を展開しているうち隊員も次第に増加し、現在108名が連日活躍しています。



## 実績・効果

最近子どもたちと住民との間にあいさつをかわすことも多くなり「ながらパトロール」の人と地域住民たちとの間に相互理解によるあいさつやパトロール隊に対する理解と協力によるあいさつ運動がさわやかに広がっています。パトロール隊が中核となり、コミュニティ協議会全体の避難訓練を平成20年11月16日に実施したほか、夏期に2回、歳末に1回警察の協力を得て、夜間パトロールも実施し、地域住民から感謝されています。

パトロール隊の編成に際しては、地域から応分の補助を得て全員に帽子とベストを支給し、保険にも加入しています。今後とも地域や子どもを守るため継続して実施してまいります。

地域コミュニティ協議会名称

# 紫竹地域コミュニティ協議会

活動名称

JR 信越本線・白新線紫竹踏切の新設・拡幅に向けた取り組み

世帯数

約 2,700 世帯

## 活動内容

紫竹地域は J R 信越本線・白新線の線路に分断されています。分断された地域間をつなぐ、ただ一個所の連絡通路である紫竹踏切は、周辺地域の開発による人口増加に伴い、朝晩のラッシュ時には、車や歩行者・自転車で溢れ、その横断には大変な危険を伴っています。また、この踏切は、信越本線・白新線のほか貨物線等の複数の路線が敷設されており、通過する電車等の本数が多いため、「開かずの踏切」として有名です。これまでも、私たちは、まちづくりトーク、区長と語る会など機会あるごとに、改善をお願いしてきましたが、なかなか改善されませんでした。

これらを踏まえ、今回、市の担当職員をお招きして住民勉強会を行うなど、新たに地域住民の要望として、分断された市道（紫竹東明線・紫竹河渡線）を直線につなぐ踏切の新設に向け、市や J R に対し、要望や働きかけなどの活動を展開しています。

## 実績・効果

地域住民の願いである、安全に暮らせるまちを実現するための活動を通じて、紫竹地域の一体感の醸成が図られつつあります。

地域コミュニティ協議会名称

## 新潟市木戸地域コミュニティ協議会

活動名称

木戸地域の安全・安心なまちづくり活動

世帯数

約4,350世帯

## 活動内容

当コミュニティ協議会は、木戸小学校と竹尾小学校の二つの校区を擁するものでありますが、両校とも従来から子どもたちの安全については、学校・保護者並びに地域住民が一体となって、活動してきております。

自転車や自家用車に「防犯パトロール中」のステッカーを取付け、保護者は登下校時を主体に、地域住民は随時“ながらパトロール”で犯罪の防止に努めてまいりました。

その中、平成19年度から「防災防犯部会」と「学校部会」の専門部会を設け、これら活動組織への積極的な参入と支援を行い、より効果が上がるパトロールの工夫（パトロール者を目立たせる）や地域協力者の増員等を行っています。また、コミュニティ協議会主催で毎年、安全・安心なまちづくりのための「安全・安心講習会」を開催しています。講師は外部からお招きし、地域の安全を保つにはどのようなことをすべきか等の講演・意見交換などを行っています。



## 実績・効果

コミュニティ協議会で専門部会を設けたことにより、学校や保護者の方々との交流が深まり、いろいろな情報が交換できるようになりました。それらを基に学校側からの新たな行事アイデアや、また、地域住民側から学校への課外活動協力増にも発展しています。

まだ、部会は走り出したばかりであり、関係各部門と更なるコミュニケーションを積み上げて行く必要があると考えています。

そのためには、ある程度の資金の裏付けも必要になると考えられます。

地域コミュニティ協議会名称

## 牡丹山小学校区コミュニティ協議会

活動名称

交通安全推進活動

世帯数

約5,800世帯

## 活動内容

当小学校区は、国道7号（新潟バイパス）が東西に走り、併せて県道（赤道）が南北に通じる三角地帯に位置している為、極めて交通量が激しく、特に朝夕のラッシュ時には、竹尾インター付近から山の下（国道113号）までの通称赤道は慢性的な交通渋滞となっています。その為、先を急ぐ車輛は、地域内の市、私道に進入し目的地に向かっているのが現状であります。地域内の住民であれば危険箇所を一応承知していて、その場所を通過する時は細心の注意を払って通過する為、地域内の住民が加害者になる事は極めて低く、大半が地域外からの車による事故であります。このような現状から「せめても被害者にならないように」を合言葉に、平成19年は当コミュニティ協議会主催による「交通安全推進大会」を開催し、特に地域の老人クラブ会員や幼稚園児・小学生を中心に意識の高揚を図ったところであります。また老人クラブの月例会等には、地元交番のお巡りさんからおいで願い講話や映写、腹話術等によって注意を喚起し、幼稚園・小学校においては、地区交通安全推進協議会等々タイアップしながら自転車乗り教室の開催や、ポスター或いは標語等を募集して注意を呼びかけております。



大会を盛り上げる為のアトラクション



交通安全に関する功労者表彰風景

## 実績・効果

昨年の「交通安全推進大会」の開催以来、機会ある毎に交通弱者を対象とした交通事故防止の呼びかけが功を奏してか交通量は全く変わらないにもかかわらず、被害を受ける地域住民が減りつつあります。中でも児童の登下校時においては、当コミュニティ協議会の会員が交替制で危険箇所の街角に立ち、交通指導を実施している事等緻密な日々の実行が効果を上げつつある事は喜ばしい次第です。今後共更に気を緩める事なく「継続は力なり」を実践していく所存であります。



地域コミュニティ協議会名称

## 入舟小学校区コミュニティ協議会

活動名称

第4回入舟小学校区自主防災会防災訓練

世帯数

約2,400世帯

## 活動内容

平成20年10月5日に入舟小学校区自主防災会主催で防災訓練を行いました。今回は災害想定を‘新潟市西部を震源とする震度5強の地震が発生し、一部で家屋が倒壊した。重軽傷者12名、電話不通で、停電、断水し、余震の可能性があり’としました。

この想定下で訓練を次のように行いました。

- (1) 各自治会で決められた一時避難場所に集まり、住民の安否を確認すると共に災害時要援護者への災害時連絡を行い、避難時の支援（リヤカー等）の準備をしたのち、参加者は主会場（入舟小学校体育館）に移動しました。
- (2) 主会場では、各自治会・町内会の責任者が避難人数を確認し、自主防災会情報部に報告しました。情報部は避難者総数を合計して市災害本部に報告しました。
- (3) 最終的に避難者は31自治会・町内会で総数602名でした。
- (4) 全体を4班に分け、それぞれを巡回して訓練を実施しました。
  - (i) 消火器取扱い（時間20分）
  - (ii) 防災資機材・火災警報器・ガス器具等の展示物見学（時間20分）
  - (iii) 及び (iv) 心肺蘇生法及びAED習得（時間45分）
 なお、消火器取扱いは自治会から選出された防災リーダーが事前に消防署員による指導を受け、当日には参加者のリーダーを務めました（今年度より）。
- (5) 給食給水班が調理した非常食を会場内で試食後、解散しました。
- (6) 訓練時間 開始時刻：8時30分～終了時刻：正午



## 実績・効果

当コミュニティ協議会構成人員約6,400名の約1割が参加した訓練となり、防災意識の向上と共にコミュニティの連携強化にも寄与しました。

また、今回より災害時要援護者への対応を強化し、コミュニティで支えていく基盤の構築に努めました。

地域コミュニティ協議会名称

# 栄小学校区コミュニティ協議会

活動名称

## 栄防災会・防災訓練

世帯数

約 1,700 世帯

### 活動内容

当地区は、古くからの町並みが続く地域で、高齢化が進み、災害時要援護者の比率は、市の平均が約4パーセント程度であるのに対して、約12パーセントに達しています。

また、一部の地域では、昭和39年の新潟地震の際に、浸水の被害にもあっています。

平成18年のコミュニティ協議会発足と同時に、自主防災組織を結成し、防災訓練に取り組んでいます。

訓練は、人身被害の軽減を第一の目標とし、年々課題を設けて実施しています。これまでに消火、煙体験、負傷に対する応急手当、心肺蘇生法、避難訓練、搬送及び焚き出し等の訓練に取り組んできました。

今年度は、心肺蘇生法を中心に応急手当の訓練を行い、避難訓練では、一歩踏み込んで、負傷者や災害時要援護者の搬送に取り組みました。



### 実績・効果

繰り返し訓練を行った結果、参加者からは

- 1 一つの訓練を集中的に実施して欲しい。(一つ一つの技術をより深く身に付けたい)
- 2 安全な町にするため、歩道上の障害物を取り除きたい。
- 3 災害時に町全体でどのような対応が可能なのか検討すべきだ。

など、生命の安全や防災に備えたまちづくりに関して、前向きかつ具体的な提案がなされるようになってきています。

今後のコミュニティ活動に、より大きな成果が期待されます。

地域コミュニティ協議会名称

# 湊校区コミュニティ協議会

活動名称

防災訓練を糧として

世帯数

約2,000世帯

## 活動内容

湊校区コミュニティ協議会を結成して平成20年で3年目を迎え、ようやく共通認識が芽生えてきたと感じていますが、その拠点並びに財務・事務局が不十分であり、大きな悩みです。

当地域は中央区一、高齢化率が高い地域です。先の新潟地震においては被害が少なく、日ごろ防災に関しての意識も比較的希薄な状況にあって、近隣意識も年々低下傾向が見受けられていたことから平成20年度は、防災訓練を企画し、地域のコミュニケーションの活性化と、少しでも安全・安心等に住民の関心を高めたいという思いで、防災訓練を最重点事業としました。

当コミュニティ協議会の防災・安全部会には、自主防災組織を組み入れてあることから、防災・安全部会を中心とし、他の部会と連携、幾多の会議を重ね、コミュニティ協議会会長が本部長となり、行政・消防・警察・小学校と協働し実施しました。

訓練当日、予想を35%も上回る604名の参加があり、防災意識の高揚と地域住民の交流及び避難所の確認がなされるなど、進行もスムーズに運営され、高い評価をいただきました。



## 実績・効果

コミュニティ協議会各部会の連携並びに、役員会の信頼関係による協力体制が比較的うまくいったことが成功に繋がったと思いますが、行政等との協働、避難先となる小学校の協力、婦人部・スポーツ振興会・PTA・消防団等の活動が素晴らしく、感激したところであり、地域の防犯・防火・事故防止等、意識の高揚を確信できました。

また、当コミュニティ協議会の存在をわずかながらも示すことができたことと、今後の活動も進めやすくなったと感じています。

地域コミュニティ協議会名称

## 白山校区コミュニティ協議会

活動名称

白山校区コミュニティ協議会自主防災訓練

世帯数

約2,700世帯

## 活動内容

当コミュニティ協議会では、平成20年9月21日に、消防署や区役所、地元の消防団、白山小学校等との連携を図りながら、第3回白山校区コミュニティ協議会自主防災訓練を実施しました。

雨天にもかかわらず総勢220名で、昨年よりも多くの参加があり、有意義な自主防災訓練を実施することができました。

もしも自分たちが災害に遭遇した時のためにも、また自分たちの安心安全のためにも防災訓練への関心が高まり、必要性の要望が多く聞かれます。

訓練当日は、各自治会・町内会名入りの、のぼり旗のもとに会場のグラウンドに集結しましたが、開会近くに曇りから雨になり、急きょ訓練会場を体育館に変更しました。

災害は、時を選ばず、場所を選ばず、予告なしにやってくることを踏まえながら、雨天時も想定した計画を含め、十数回の検討を重ねてきました。

参加者の皆さんの理解と協力を得て、混乱もなく無事に訓練を終えました。

また今回、女性委員が初めて非常食のアルファ米の炊き出し訓練を行いました。訓練終了後、参加者全員に非常食の五目ごはん、非常用飲料水を配りました。

非常食を初めて体験した人が多く、味への評判も上々でした。



## 実績・効果

自治会・町内会においては要援護者の方への対応などを中心に、防災全般に関心が高くなってきて、緊急連絡網の作成などに取り組んでいるところが多く見受けられます。

また今後も、訓練種目も同じ種目を多く取り入れ、繰り返し訓練を受けることで緊急時の対応の仕方の一助になるものと思います。

様々な課題はありますが、今後も自主防災訓練の一層の充実に努めたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

# 礎地域コミュニティ協議会

活動名称

礎地域自主防災会

世帯数

約 1,700 世帯

## 活動内容

礎地域は新潟市の中心に位置し、昔より住民の自主活動が盛んな地域です。

当地域では、高齢者の占める割合が非常に高く、災害時避難誘導、安否確認等、地域としての援護体制の確立が急がれていました。

そして平成18年5月に礎地域自主防災会として発足しました。

平成18年11月5日に第1回、19年10月28日に第2回、20年10月12日に第3回目を行いました。

防災訓練の内容は、各町内会ごとに集合して歩いて避難場所に向かう避難誘導訓練、消火器及びバケツリレーによる初期消火訓練、救出救護訓練、非常食炊き出し訓練を実施しました。参加した約150人の住民は、震災が発生したという想定のもと、本番さながらの訓練を実施しました。

開催にあたり、当コミュニティ協議会、市役所、市中央消防署礎出張所、市消防団中央方面隊礎分団、新潟地区民生委員児童委員協議会、市赤十字奉仕団礎分団、市社会福祉協議会、市防火連合会礎支部など、各団体協力のもと実施しました。



## 実績・効果

実際に防災訓練を行ったことにより、自分たちの地域は自分たちで守ろうという防災意識が高まっています。

そして、地域で活躍する団体にも、自分たちの活動をアピールすることができました。

礎地域自主防災会設立3年にして、地域住民の連帯感が生まれ、防災活動による、安心安全な地域づくりが少しずつ確立してきました。

地域コミュニティ協議会名称

# 浜浦小学校区コミュニティ協議会

活動名称

「安心・安全なまちづくり」地域の安全・環境パトロール活動

世帯数

約3,700世帯

## 活動内容

### 浜浦地区の環境

海岸線（関屋浜）約1,600m、河川（信濃川・関屋分水路）約900m、橋梁（新潟大堰橋・浜浦橋・堀割橋）3本、JR越後線、国道116号、国道402号、県道新潟・亀田・内野線

などが輻輳している住宅街です。

### 活動内容

「安心・安全なまちづくり」を目指し、きめ細かなパトロールを実施しています。西海岸公園、海岸線、河川、公園等は市民の憩いの場であると同時に、不法者の溜まり場でもあり、時々問題が発生する地帯です。その予防・摘発は単独自治会・町内会では困難で、協議会をあげて効果的な解決策で取り組む事としました。

- ・16の自治会・町内会を3班に分け、各班に班長を選任し、円滑な運営を図っています。
- ・パトロールにより問題点を摘出し、規定の報告用記録用紙に記載し、防犯部会長、環境部会長に提出します。担当部会長は内容検討の上、協議会で説明し、適切な処理を行います。



## 実績・効果

### 実績

学校の出入り口3箇所が、喫煙目的の溜まり場になり、地域住民が防火面・環境面から危険を感じていましたが、環境部会長が関係当局と幾度かの話し合いを行い、解決しました。当局の指導強化並びに、出入り口に禁止看板を設置した事によります。

### 効果

- ・単独の自治会・町内会では重荷で解決不可能な問題でも、コミュニティ協議会で取り組む事で解決がスムーズに展開しています。
- ・災害時の隣接自治会・町内会との相互支援、連携がスムーズになり、防災面で大きな効果を得ました。

地域コミュニティ協議会名称

# 関屋小学校区コミュニティ協議会

活動名称

犯罪から地域を守ろうパトロール活動

世帯数

約2,700世帯

## 活動内容

関屋小学校周辺には、比較的多くの女子学生を擁する「新潟青陵大学、新潟青陵大学短期大学部、新潟青陵高等学校」があり、数年前までは非常に家庭的な雰囲気が漂う、ゆったりとした生活し易い地域でした。そのため、犯罪などの発生が少なかったのですが、ここ最近は「風俗犯（公然わいせつ）」の横行が多くなりました。

私たち「関屋小地区防犯協会」は、子どもたち（関屋小学校児童192名）や女子学生などを被害から守ろうと、地域を4ブロック（関屋田町、下川原松波、学校町3、関屋新町・田町）に分け、毎月第1、第3木曜日の午後3時から、約1時間かけて、子どもたちの下校時間帯に合わせて、防犯タスキ、防犯帽子を着用し、自治防犯会長、自治防犯委員、民生委員など、1ブロック7～8名で巡回・巡視し、犯罪防止に努めています。

青色回転灯装備車（青パト）の参加も時々いただいています。



## 実績・効果

パトロール実施に当たり、地域の皆さんは当初はあまり関心を示しませんでした。巡回・巡視の回数が重なるこの頃は、私たち役員の苦勞を察し、地域の方々の挨拶の輪が広がってきたような気がします。このことがコミュニティ協議会の全体の事業内容に浸透してくれることを期待しています。

地域コミュニティ協議会名称

## 有明台小学校区コミュニティ協議会

活動名称

防災運動会を取り入れての防災訓練

世帯数

約2,800世帯

## 活動内容

最近、地震を含む災害が頻発していることから、地域がひとつにまとまり、災害に対応する態勢を整えようと、平成16年6月15日に「有明台校区自主防災会」を設立しました。

防災会は、向こう三軒両隣（隣保協同）精神に基づく自主的な防災活動を行うことにより、水害、火災、地震、その他の災害による被害の防止及び軽減（減災）を図ることを目的としています。

災害時は迅速な活動が求められるため、各関連団体の持ち味を活かして、給水給食部は婦人部、避難誘導部は交通安全推進協など7つの専門部を組織し、役割分担を明確にしました。

当初は、避難誘導訓練、初期消火訓練、搬送訓練、人工心肺訓練、起震車体験、消防署への伝達訓練、止血訓練など、体験訓練が主でしたが、昨年からはこれらを取り入れての「避難所運営訓練」まで開催できるようになりました。

また、子どもたちに災害に対する関心を深めてもらうことも大切と、初年度からバケツリレーや情報伝達リレーなどの「防災運動会」を組み込み、多くの子どもたちの参加があったことは特筆すべきことでした。参加者は400～450人です。



## 実績・効果

現在、防災訓練が契機となって、地域の福祉活動（一斉清掃・お楽しみ会等）や防犯活動、スポーツ活動等が活発となるなど地域のコミュニケーションが容易となり一体感が生まれました。

それに、この活動が評価され、総務省・警察庁の「地域安心安全ステーション整備モデル事業」の指定も受け、その助成金で登録無線機や発電機、担架といった資機材を配備でき、より効果的な訓練やパトロール、登下校時の交通安全誘導など幅広い活動ができるようになりました。

まだまだ、様々な課題はありますが、今後も訓練ばかりでなく地域に根差した活動、住民共通の認識の上に向けた目標に向けて、精進に努めたいと考えています。



地域コミュニティ協議会名称

## 鳥屋野校区コミュニティ協議会

活動名称

鳥屋野校区自主防災会

世帯数

約5,400世帯

## 活動内容

当防災会は、地域内が一つにまとまり、災害に対する体制を整え、組織内各部相互の連携及び効果的な自主防災活動の実施と各種防災資機材の知識及び取扱要領を習得し、災害発生時に迅速な対応で被害の防止と軽減を図ることを目的として、平成17年2月に設立されました。

平成20年11月2日に第4回目の自主防災訓練が実施され、住民の相互助け合い精神の絆を一層強めることができました。

当防災会では、災害時の迅速な活動が図られるように、「本部」と「防災情報部」、「防災訓練啓発部」、「給食給水部」、「避難所運営部」の各部署体制で、住民の役割を明確にした組織化を図っています。

今回の防災訓練の指導は、地域と隣接の消防署、地元消防分団の方々からいただきました。

訓練の内容は、避難誘導訓練、情報収集訓練、初期消火訓練（消火器の取り扱いとバケツリレー）や、救出救護訓練では心肺蘇生法の講習と三角巾やダンボールを用いた応急手当、毛布と物干し竿を使った応急担架の作成、煙体験テントによる火災時の濃煙体験など、その対処法を習得しました。最後には炊き出し訓練のアルファ米のご飯を参加者全員で味わいました。



## 実績・効果

今回の成果としては、初めて災害時要援護者宅を訪問し、安否確認情報を収集する訓練を実施できたことです。

今後も防災訓練を繰り返し行い、さらなる内容の充実と質の向上を図ると共に参加人数を増すためのPRに努める必要があります。

地域コミュニティ協議会名称

# 上山校区コミュニティ協議会

活動名称

収容避難所運営組織づくり事業

世帯数

約4,600世帯

## 活動内容

各自治会では、どのようにして家族コミュニティづくりを呼びかけるか、どのようにして隣近所が助け合う隣組・班に進化させるかが当面の課題です。

この手段のひとつとして、防災組織結成活動に取り組む自治会が生まれていますが、まだ20自治会中7自治会の結成にとどまっています。

一方、このような状況下で、万一大災害が発生したら、数千世帯もの住民が無秩序に小中学校に避難することとなり、大混乱は避けられないだろうということが、コミュニティ協議会役員の共通認識で、防災研修会を実施することになりました。

## 実績・効果

### 防災研修会の開催実績

#### 研修内容：

- ・収容避難所運営に際し発生する問題及びその原因
- ・諸問題発生を減らすための方策提起

参加者：85名

(自治会の会長や防災・育成関係者、小学校PTA役員、民生・児童委員)

#### 研修成果：

- ・コミュニティ協議会に安心安全部会を新設するきっかけとなりました。
- ・収容避難所の運営や各自治会の防災活動について、コミュニティ協議会で検討を進めていくきっかけとなりました。

### 事業の効果

- ・まず、ひとつの自治会で防災組織が結成され、町内一時避難所の設定と訓練が行われました。
- ・安心安全部会からコミュニティ協議会へ提案を行い、それを受け、コミュニティ協議会の構成団体である自治連合会やPTA、民生委員児童委員協議会で検討し、その後コミュニティ協議会で検討を進めていくこととなりました。

#### 【提案内容】

1. 各自治会防災活動において最低限対応すべき事項として、「各町内一時避難所選定、収容避難所誘導統率者の選出、要援護者支援体制づくり、防災訓練の実施」など
2. コミュニティ協議会として最低限対応すべき事項として、「各収容避難所運営協力責任者の選出、収容避難所収容者名簿用紙の作成並びに自治会への配布」

地域コミュニティ協議会名称

# 女池校区コミュニティ協議会

活動名称

女池校区自主防災会活動

世帯数

約5,800世帯

## 活動内容

女池校区自主防災会は、地域住民の安心・安全を支援するために、平成17年10月に設立しました。この地域は、鳥屋野潟に面した地盤の低い所で、常に水害、地震などの危険がつきまとい、住民の不安が消えません。

防災会はこのようなことから、校区全域の自主防災に対する、住民の災害に対応する姿勢を整え、被害の防止、軽減することを目的にしています。

毎年、市消防局の指導を受けて、女池小学校体育館を会場に各自治会（26自治会）の、のぼり旗を先頭に、避難所への誘導、初期消火訓練、心肺蘇生訓練、応急救護訓練、三角巾の使い方の訓練、婦人部による非常食炊き出し訓練（アルファ米）を行い、終了後参加者全員でアルファ米を試食しています。



## 実績・効果

訓練を重ねるにつれ、住民の災害に対する意識が向上し、皆さんで声を出して集合が出来るようになり、分野を超えた活動になりつつあります。これからもますます防災訓練を重ねて、よりよい安心安全なまちづくりに取り組んでいきたいと思えます。

地域コミュニティ協議会名称

# 上所校区コミュニティ協議会

活動名称

地域住民の防災・防犯意識を高める安心安全なまちづくり活動

世帯数

約6,200世帯

## 活動内容

当地域は住宅が密集している地域が多く、お年寄りだけの世帯も少なくありません。そのため、これまで救急法の講習や防犯講習会を実施して防災・防犯の啓発に努めてきましたが、参加者が少なく意識を高めるまでには至っていませんでした。また、防災訓練を実施している自治会もありますが、諸事情で実施できない自治会も数多くあります。

そこで、平成20年度は、市中央消防署駅南出張所と地域の消防団の協力を得て、上所小学校のグラウンドと体育館を借用し『防災フェスタ』を計画しました。

当日は、消防音楽隊の演奏に始まり、応急手当法、心肺蘇生法、消火器の使い方などの実習や、消防車・小型消防車に手を触れながらお話を聞くことができました。危ぶまれた参加者数も各自治会長や上所小学校PTAの協力を得て、200名以上の人々が集まってくれました。「近くに消防団の人や小型消防車があるなんて知らなかった」と話している子どもたちの声が印象的でした。

防犯の面では平成20年度も新潟東警察署の協力で、振り込め詐欺などの被害に遭わないための講習会を開催し、80名余が受講しました。また、防犯部による防犯パトロールを実施すると共に、自治会によるパトロール隊の編成を呼びかけ、現在では複数の自治会が子どもたちの登下校に合わせて巡回を実施しています。

## 実績・効果

『防災フェスタ』では、特に応急手当法や心肺蘇生法の実習に進んで取り組む姿が見られました。「いざとなると手が出ないかもしれないが、知っている知らないとは大違いだ」などの声が聞かれ、防災への意識の高まりは期待できたと思います。また、消防車を校地内に入れるときの苦勞から、避難所である学校の出入り口の改善が必要であることもわかりました。

防犯講習会では、効果を見ることはできませんが、今も増え続けていると言われる振り込め詐欺に対する備えが参加者に浸透したのではないかと思います。

地域コミュニティ協議会名称

# 笹口校区コミュニティ協議会

活動名称

自主防災会

世帯数

約4,100世帯

## 活動内容

平成16年1月に、校区内17自治会・町内会で構成する笹口校区自主防災会を結成しました。地区を1区から4区と4つのブロックに分割し、本部を避難所に設置しました。また各自治会・町内会毎に一時避難所を設け、災害訓練時はそこから全員が本避難所に向かいました。

組織は、本避難所に行政との連絡のための会長・副会長等を始め、避難所運営のための情報部・避難所運営部・給食給水部を設置し、各自治会・町内会に情報部・消火部・救出救護部・避難誘導部を設置しました。

平成20年11月9日に第5回目の「避難訓練」と「各種訓練」を行ないました。

参加人員は308名でした。全員を三つの班に分けて、訓練を行ないました。

訓練内容は、

- ① 「情報伝達」(各自治会・町内会より本部情報部に報告→会長→区)
- ② 「初期消火訓練」水消火器及びバケツリレーによる初期消火。
- ③ AEDを使った「心肺蘇生法」の訓練。
- ④ 「地震体験車」による、揺れの程度の体験。

訓練を終えて、自治会・町内会ごとに、給食・給水班の作った、アルファ米の昼食と、とん汁をいただきながら、ひとときの談笑を交わして解散しました。みんな一所懸命に訓練しました。

また、毎年秋に「防火・防犯座談会」を開催しています。出席者は50～60名程度です。



## 実績・効果

当校区は、全世帯の約75%がアパート・マンション住まいであり、加えて、年間100世帯余りが移動します。そうした環境で、年代層を乗り越え住民全体の風通しを良くする妙案はありません。子どもを持つ親同士は、学校に創設した「ふれあいスクール」を通じて、融和を図っています。より多くの住民が顔見知りになるために、防災訓練等の機会に大勢参加してもらえよう、学校との二人三脚で実施しています。少しずつ「地域の輪の風」が吹くことを祈りながら……。

地域コミュニティ協議会名称

## 山潟地区コミュニティ協議会

活動名称

総合防災訓練

世帯数

約7,200世帯

## 活動内容

山潟地区コミュニティ協議会創立早々、地域の防災活動の実情を把握するため、加盟自治会に自主防災会設立の有無と、その活動の内容のアンケート調査を行いました。その結果、自主防災組織は14組織に達し、新潟市の平均を上回っていました。

しかしながら、設立以来防災訓練を継続して積み重ねている組織は、8防災会にとどまっています。また、相互に訓練の交流を実行しているのは2防災会しかありませんでした。

以上の実情から、万一災害が発生した場合の危機管理、避難のあり方を考えた場合、コミュニティ組織全体として災害対策意識の共有、向上が不可欠であると思われことから、コミュニティ協議会加盟組織の協力を得て総合防災訓練を行うこととしました。「自分たちのまちは自分たちで守る」という防災意識の高揚を図るとともに、災害時の初動的対応力を習得することを重点にして、安心安全部会が中心となり、立案、運営に当たりました。



## 実績・効果

## 【実績】

参加人員 450名

- 主な体験内容
- ◆消火器取扱訓練
  - ◆濃煙テント体験
  - ◆起震車による地震震度体験
  - ◆AED操作、心肺蘇生法実習
  - ◆給水車による給水
  - ◆アルファ米炊飯作業と配食

## 【効果】

- ① 避難行動中の統制、安全確保と人員の把握の実施
- ② 自治会員に共通の防災意識の向上
- ③ 避難所の機能の確認と高齢者、災害弱者の避難対応
- ④ 広域災害時の自助、共助の構築

地域コミュニティ協議会名称

# 亀田西小学校区コミュニティ協議会

活動名称

## 亀田西小学校区合同防災訓練

世帯数

約4,100世帯

### 活動内容

亀田西小学校区は、防災活動の盛んな地域です。各自治会・町内会で積極的に訓練を開催し取り組んでいます。

平成18年4月にコミュニティ協議会が設立された頃、中越地震・能登地震・三重地震と続き、地域での防災意識が高まりました。平成19年5月から当協議会の安心安全部会が中心となり、区役所・学校・警察署・消防署・コミュニティ協議会（地域）が一体で、亀田西小学校において「合同防災訓練」を実施しています。

合同防災訓練の目的を、①住民の防災意識の高揚を図る。②地域連帯感の強化を図る。③災害時要援護者対策を図る。④自主防災組織設立の支援とし、より実践的な訓練を行なうため、震度5強の地震を記録した想定で実施しています。訓練内容は、自治会・町内会ごとに行動することを基本とし、近くの公園等へ一時避難、災害時要援護者の安否確認をした後、集団で会場へ避難します。

合同防災訓練の内容は、初期消火訓練・応急手当訓練・火災の煙体験・はしご車試乗訓練や炊き出し訓練などの多様な訓練を実施しています。平成20年度は、県内に1台しかない地震を体験できる“起震車”を招くなど、実施しました。



### 実績・効果

平成19年度、20年度と訓練を実施し、参加人数も増えていきます。今年度は、子どもから高齢者まで男女や年齢に関係なく400人余りの方々から参加していただきました。行政・学校・警察・消防・地域が連携し、地域の防災意識が高まり、連帯感を深めることができました。

今後も、合同防災訓練の目的のため、地域防災活動の一層の充実に努めたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

# 小合地域コミュニティ協議会

活動名称

安心・安全地域づくり活動事業（小合地域自主防災協議会）

世帯数

約 1,120 世帯

## 活動内容

中越地震の災害復興もまだ半ばにして、再び遭遇した中越沖地震、さらに度々報道される災害の情報、少子・高齢化における人口の減少、要援護者の対策、災害に遭遇したときの対策等を検討しました結果、解決策として平成18年度に自主防災協議会の設立に至りました。

二十数回にわたる検討会、反省会や地域動向調査を積み重ねて結成し、住民総意による安心・安全な地域づくりを目指し日々活動しております。

### 1. 組織・活動内容

- (1) 災害対策本部 コミュニティセンター
- (2) 災害対策分会本部（小学校） 2ヶ所
- (3) 現地対策本部（町内会集落センター） 14ヶ所

### 2. 参加組織

町内会・中学校 1 校・小学校 2 校・P T A・保育所・幼稚園・老人クラブ・民生児童委員会・交通安全協会・青少年育成会・消防団

### 3. 災害啓発活動

恒常的に関係会議を開催

### 4. 防災訓練方法（災害想定訓練）

- (1) 災害本部長の災害発令訓練開始
- (2) 一次避難訓練、14現地災害本部長の指揮命令により行動開始。
- (3) 二次避難訓練、2分会部長（東・西南地区）の指揮命令により行動開始。
- (4) 災害訓練（避難誘導訓練・初期消火訓練・有煙体験訓練・炊き出し訓練）



## 実績・効果

発足当時、いつ遭遇するとも知れない災害に対する訓練に関心を持つ人が少なかったのですが、啓発活動により月日を追うごとに地域住民には自主防災についての必要性が認識されております。

平成19、20年度の災害訓練にはともに約700名の参加があり、大きな実績を上げました。また、各自治会にも年々防災資機材の導入を計画し、より一層防災に強い安心で安全な地域づくりに努めたいと考えております。



地域コミュニティ協議会名称

## 山の手コミュニティ協議会

活動名称

安心・安全なまちづくり活動

世帯数

約 1,380 世帯

## 活動内容

はじめからうまくいくわけがない、「とにかく立ち上げて行動、行動しながら改善しよう」。防災訓練の立ち上げ時にどこがうまくいかないかを平常時に検証するのが訓練であるから、うまくやる必要はないと訴え合同防災訓練に取り組みました。

防災訓練とあわせて、その日までに区内全ての自治会に自主防災組織が立ち上がりました。訓練前までは1自治会しかなかった自主防災組織が、防災訓練の日までに区内18自治会すべてに自主防災組織を立ち上げましたから組織率は100%です。

そのほかに下校時の子ども見守り隊、緊急時の防犯パトロール、秋の防犯週間に合わせた中学生防犯指導の取り組み、年末年始防犯パトロール、青色防犯灯の取り組み、さらに各自治会長及びコミ協全役員の自家用車に「パトロール中」のステッカーを付け巡視、また現在、防犯部長の自家用車への青色回転灯の取付許可を警察署に申請中です。



## 実績・効果

山の手コミュニティ協議会に結集する新興住宅住民と旧住民の融和だけではなく18自治会の一体感、「山の手コミ協はひとつ、18自治会は隣組」という気持ちに変わってきました。行政に対する要望事項も地域全体を見た観点からの要望になってきています。

私たちの活動が地域から頼りにされ、地元の老人保健施設から災害時の相互援助協定を結ばせてほしいという依頼が二ヶ所から来て、平成20年10月に協定を結びました。

地域コミュニティ協議会名称

## 坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会

活動名称

住民総出のまちづくり

世帯数

約5,500世帯

## 活動内容

当学校区は、新潟市内でも数少ない一小・一中学校区で地域の結束力が強く、学校区内22自治会4,800世帯が加盟して、去る平成12年に坂井輪小学校区自主防災会を設立しました。

当自主防災会が毎年10月に実施する地域合同防災訓練には毎回600名からなる地域住民の参加に加えて、地元小新中学校の生徒も多数参加し、地域住民と一緒に避難訓練・救護訓練、救急救命訓練、炊き出し訓練などで実技を習得、地域ぐるみで災害時の対応に備えています。

毎年実施する防災訓練の種目や綿密なタイムスケジュールの作成等は、役員で地元在住の新潟市消防局のOBが担当、訓練実施にあたっては種目毎に加盟自治会長が役割を分担、炊き出しには婦人部のベテラン主婦40名が600人の給食を担当しています。



地元の中学生も参加する地域合同防災訓練



自治会標旗を先頭に集合する訓練参加者

## 実績・効果

設立9年目を迎えた坂井輪小学校区自主防災会は、当初から統制のとれた訓練内容と、防災訓練を通じて安心・安全なまちづくり運動が関係機関から高く評価され、あしたの日本をつくる運動協会（内閣府）のモデル地区に指定されるなど、災害に強いまちづくりのために、地域住民の結束が強まり世代交流の輪が更に広がりました。

地域コミュニティ協議会名称

## 五十嵐小学校区コミュニティ協議会

活動名称

防災図上訓練

世帯数

約5,300世帯

## 活動内容

五十嵐小学校区域は、新潟地震以後（昭和40年以降）急速に住宅開発が行われ、今日に至っております。そのため都市整備が追いつかず、道路幅も狭く、袋小路が各所にあり、迷路状態になっている所もあります。

“もしも火災や地震などの災害が発生した時はどうするか……”すでに各自治会単位では、危機意識を持って自主的に独自の防災訓練を実施してきました。

コミュニティ協議会が設立したのを機に、区域内のどこにどの様な危険個所があるかを認識し、さらに又、どの様な施設があって、災害時にはどんな協力をお願いすることができるのか等々を、災害部長を中心としたワークショップ形式で、災害を想定しながら、図上での全域の防災対策を検討しています。



## 実績・効果

今まで、自主防災会のなかった自治会での設立、または小規模組織の自治会が一緒になり、複数での自主防災会の立ち上げを検討中のところもあり、自主防災に対する意識の向上が見られる様になりました。

地域コミュニティ協議会名称

## 立仏校区ふれあい協議会

活動名称

立仏校区防災訓練

世帯数

約2,700世帯

## 活動内容

立仏小学校の校区内は、田園に建設された住宅団地と古くからの農家集落が混在する地域で、信濃川と西川に囲まれた海拔の低い地勢にあります。

地域周辺には、大型店舗も数多く、新潟西インターチェンジも近いなど生活の利便性は高く、加えて総合病院もあり恵まれた生活環境を享受している地域です。

しかし、地域住民の高齢化が進む一方、団地の住民の多くは地域外の職場に勤務するため昼間人口は少なくなり、大きな災害が発生した場合は不安があります。

立仏校区ふれあい協議会では、発足後に校区内の全15自治会に呼びかけ「防災訓練の実施」に取り組むことにしました。

15自治会で「自主防災組織」が全て設立されたのを契機に、各自治会や防災関係機関はもとより「済生会新潟第二病院」からも参加いただき、「訓練計画」の準備を進めました。

訓練は、平成19年9月9日（日）に『地震発生を想定』して実施しました。

会場の立仏小学校の体育館に、地域のみなさんは、各自治会の集合場所から徒歩で避難していただき、参加された方は555名になりました。

訓練は、アルファ米の炊き出し、耐震車の体験、AEDによる心臓マッサージ体験、煙からの避難体験、消火器使用訓練のほか「トリアージタッグ」の学習や防災用品見学など行い、みなさんからは、班に分かれて参加していただきました。



## 実績・効果

参加された方々からは、感謝のご意見を数多くいただきました。また継続実施の要望も多くありました。

協議会では、この結果を生かしていくために、平成20年度から「防災部会」の新設を総会で決め、各自主防災会から適任者の参加をいただき、平成20年8月28日新たに「防災部会」を発足させ活動を開始しました。【一步一步の歩みです】

地域コミュニティ協議会名称

## 山田校区ふれあい協議会

活動名称

通学道路・一般道路の安全点検

世帯数

約2,800世帯

## 活動内容

当会では、生活環境部会を中心に、結成から毎年、校区内を二つの地区に分け、道路環境の点検パトロールを実施しています。

この事業は、安心・安全なまちづくりを目指し、通学路や生活用道路として普段利用する歩道やカーブミラーなどに不備がないか、横断歩道の白線が消えかかっていたりしないか、側溝や排水路などに危険な箇所はないかなど、お年寄りや児童・生徒、障がい者のみなさんなど一般住民の視点に立ち、危険な箇所をピックアップし、写真に収めながらパトロールを行うものです。

平成20年度は、8月6日にパトロールを実施しました。その結果、30箇所の不備や危険箇所を発見。地図に写真を添付して活動成果の資料として作成し、道路の管理者である西区役所を訪れ、資料に基づき改善要望を行ったところです。



## 実績・効果

歩道などは地域に居住する住民にとって利用頻度の高い公共施設であり、特に通学路においては小学校の児童が利用することから、高い安全性が要求されるものと考えています。

当会では、1年に1回このような点検活動を行うことで、施設管理者への改善要望を行ってまいりましたが、これまで速やかな対応が図られ安心・安全な街づくりの一端を実現しています。

地域コミュニティ協議会名称

## 中之口地区コミュニティ協議会

活動名称

中之口地区総合防災訓練

世帯数

約 1,700 世帯

## 活動内容

「防犯防災部会」は45名の部会員で発足しました。素人集団の部会ですが会議を重ねる中で、総合防災訓練の開催（平成19年6月17日）を宣言し、それまでに「自主防災組織結成を」とタイムリミットを作りました。訓練日までに結成率が中之口地区で100%になったのは、中越地震などを体験したことによる防災意識の高まりや、自分たちの地域は自分たちで守るという意識の表れと感じています。

訓練では、震度5強の地震発生を想定し、防災無線によるサイレンを合図に各家庭での火元の確認、身体保護などを行い、住民は避難を開始しました。

各自主防では「避難誘導訓練」から始まり「情報伝達訓練」などの多様な訓練実施後、自主防名入のぼり旗を掲げ、総合防災訓練会場へ移動しました。災害対策本部に、避難人員などを報告後、消防団によるポンプ車10台での「放水訓練」、「バケツリレーによる消火訓練」、「ダミー消火器による消火訓練」、「救急救命訓練」、「給食給水訓練」など午後1時から始まり午後5時まで、4時間に及ぶ訓練を無事終了しました。

第2回の訓練（平成20年6月15日）では一部の自主防が「災害時要援護者避難誘導訓練」を実施しました。訓練参加者は、平成19年が1,864名、20年が2,120名と地区住民の3分の1弱となっています。



## 実績・効果

1. 住民の防災に対する意識が高まりました。
2. 中之口地区すべての自治会で自主防災組織が結成され「災害時要援護者」支援体制が充実しました。
3. 防災訓練実施1カ月後に、中越沖地震が発生しましたが、自主防役員及び一般の住民が、自発的に避難所や集会所等に駆け付け、被害状況早期把握に貢献しました。
4. 住民の連帯感が増しました。

地域コミュニティ協議会名称

## 松浜地区コミュニティ協議会

活動名称

ゲストティーチャー地域講座

世帯数

約4,100世帯

### 活動内容

近年、学校と地域の連携が希薄化していると言われています。

このような状況を改善し、「地域の人の生き方を通し、自分の人生の参考にさせていただきたい」との趣旨で、平成18年度から松浜地区コミュニティ協議会教育文化部会が主催となり、松浜中学校の総合学習の一環として当事業がスタートしました。

松浜地区に在住する地域のスペシャリストたちを講師に、出前講座を開催し、中学校の全生徒426名は、自分の好きな講座を選択し、約2時間楽しく真剣に学びました。

講座の内容は、「松浜太鼓」「少林寺拳法」「パソコン」「お菓子づくり」などの体験講座のほか、「松浜のなりたち」「松浜稲荷神社の生いたち」「北区のお宝再発見」など地域を知る講座、「地元出身美容師の体験談」などの生き方講座まで様々です。

生徒たちからは、「普段、体験する機会がないことを体験できて楽しかった」「郷土の歴史を知り地域に興味を湧いた」「今後の人生に活かしていきたい」などの感想が多数寄せられ、同時に、講師の方々からも「良い体験をさせていただいた」「生徒との交流が楽しかった」との感想が寄せられました。

今回で3回目になりましたが、地域・学校・生徒たちと講座の内容などを検討しながら今後も継続していく予定です。



### 実績・効果

この事業は、地域と学校、生徒と講師、講師同士の連携、人材の発掘など多くの可能性を期待できると思います。

地域とのふれあいの場を提供することにより、生徒たちが地域を身近に感じ、校外での地域交流も広がってきているようです。

継続して実施していくことにより、地域・学校・保護者等が連携して子どもたちの健全な育成に繋げていくことができると考えています。

地域コミュニティ協議会名称

# 山の下地区コミュニティ協議会

活動名称

家庭と地域との連携による子育て事業「家族で食卓を囲んで」

世帯数

約2,450世帯

## 活動内容

最近、親子・家族全体の家庭内におけるコミュニケーション、特に家族揃っての食事や団楽の機会が少なくなってきました。

殊に食事の時間に、テレビをつけての食事時間帯が長く、その頻度も多くなってきました。

そこで、当地区内の保育園・小中学校の園児・児童・生徒584名の家庭に、カラー印刷のイラスト及びカレンダーを配布し、テレビを見ないで夕食を楽しむ家族団楽の日を設けていただき、「家族で食卓」を囲むことを実践するための事業を実施しました。

また、期間内にどれくらい家族団楽の日が実施されたか、一目でわかるよう、実施日にはカレンダーにしるしをつけていただき、カレンダーを回収しました。

なお、平成20年度は平成21年1月～2月の期間に実施しました。

## 実績・効果

※最低週3回は、テレビを付けずに食卓を囲む習慣づけの普及ができました。

※事後調査結果

(1) カレンダーの回収率：保育園41.7%・小学校51.3%

(2) 実績

下記の割合で、週3日はテレビを付けずに夕食をとったという実績を得ることができました。

ア. 保育園児の家庭：約25%

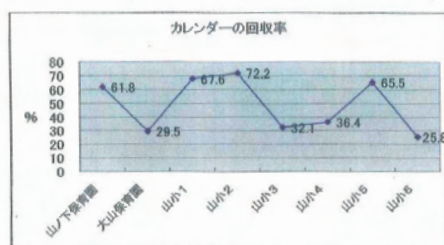
イ. 小学校1年生の家庭：約50%

ウ. 小学校2年生～6年生の家庭：約20%

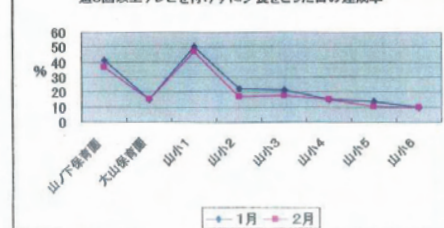
なお、詳しいデータは、添付資料のとおりです。



食卓カレンダー集計結果



週3回以上テレビを付けずに夕食をとった日の達成率





地域コミュニティ協議会名称

# 横越コミュニティ協議会

活動名称

合併建設計画事業における保育園用地の選定の取り組み

世帯数

約3,500世帯

## 活動内容

横越コミュニティ協議会では、コンパクトな組織を心掛け、まちづくり部会、健康・福祉部会、教育・文化部会の3つの部会を設けています。

まちづくり部会は、防犯、交通安全、市政懇談会の開催、合併建設計画の進捗状況の把握などの活動を行っています。

平成20年度は保育園用地の選定についての取り組みに力を入れました。老朽化した横越中央保育園の増改築が現有地で予定されていましたが、手狭であり、園児の送迎にも交通安全面から問題がありました。

そこで総会や区長との市政懇談会での協議を経て、現横越地区公民館の跡地を建設用地に選定するよう保育園父母の会、関係自治会に働きかけ、それらと連名で江南区に要望書を提出しました。

## 実績・効果

要望書を受け区役所が協議した結果、地区の要望を踏まえ、現有地から現横越地区公民館跡地へ変更になりました。

結果として、改築スケジュールは遅れましたが、住民の要望する用地選定がなされたことは、保育機能の向上に資するものとして評価しています。

今後とも地区の諸課題に対し、住民の声が反映するまちづくりを進めていきたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

## 荻川コミュニティ振興協議会

活動名称

地域が見守る青少年健全育成

世帯数

約5,600世帯

## 活動内容

荻川地区はこの30年間で、人口が2倍に急増した地域です。新旧住民の軋轢等から、子どもたちが荒れた時代がありました。これを克服してきた住民にとって、子どもたちの健全育成はまさに欠かせないニーズなのです。

これは一つのことで達成できるものではなく、さまざまな試みと息の長い活動の継続が必要です。荻少スポーツクラブは町内会の助成を受けながら30年以上少年野球のスポーツを通じて青少年を育成。花いっぱいにする会は環境美化が穏やかな心を育む観点から、中学校生徒・警察署と連携しこの運動を18年継続。呼応して当コミュニティ協議会は、平成11年に「あいさつ」が子どもを含む新旧住民融合の原点だと「あいさつ運動」を開始しました。街宣車による呼びかけと、各町内会の協力により毎月10日に住民が街頭に立ち、呼びかけを継続しています。小学校・中学校もまたこれに真剣に取り組んでいます。

さらに学社融合事業の一環として3年前から総合学習支援に取り組んでいます。結小学校3年生全員をコミュニティセンターに招き、コミュニティセンター利用団体の皆さんのご協力で子どもたちが色々と体験をしています。今までに10に及ぶサークルの皆さんから子どもたちを指導していただき、毎年全員の子どもたちから喜びにあふれた礼状が届いております。結小学校は各学年が150名を超える県下2番目のマンモス校、これだけ多くの子どもたちを生き生きとさせてくれたのもこれまでに200名を超える地域の方々の協力のおかげです。



## 実績・効果

「荻少スポーツ」は少年野球で県を制覇し、他県にまで遠征と過去に幾多の実績を残して団結心と絆を育成。「花いっぱい」は穏やかで優しい感情の育成。「あいさつ」は各学校の来客や、赴任してきた教職員が感動したと述べています。新津第二中学校は「いじめ0運動」の柱に据えています。「サークル体験」では「地域の方々が生き生きと活動する姿にふれて、子どもたちは地域に対する愛着を一層深めることができました」と学校から謝意が表されています。これらが相まってか、各校長から「学校は平穏です」の報告がずっと続いています。

地域コミュニティ協議会名称

## 大通コミュニティ協議会

活動名称

文化講演会

世帯数

約 1,940 世帯

## 活動内容

当協議会は、自治協議会組織を発展的に解消し平成18年3月21日産声をあげた組織です。

7部会で構成、各部会においていろいろな事業を実施していますが、コミュニティ協議会として力を入れているものの1つが文化講演会です。

中央より著名な講師を招き子供をもつ親に年1回開催しているものです。1回目は明星大学教授・高橋史朗氏、2回目は作家・上坂冬子氏、3回目は永世棋聖・米長邦雄氏に講演をいただきました。少子高齢社会のなかで、如何に子供達を健全に育てることができるかをテーマに取り組んでいます。

事業は、コミュニティ協議会が主催し、各世帯にチラシ配布を行い小学校・中学校に協賛いただいています。ポスター・チラシは、市内全域に配布し集客を図っています。新潟市・新潟市教育委員会にも後援いただいています。

会場設営等は、小学校の協力を得て、コミュニティ協議会各部会が担っています。

参加は、毎年300人程度ですが、講演会終了後、アンケート協力を実施、地域の声を反省材料としています。



H19.10.21 講師：上坂冬子先生  
テーマ：「これでいいのか日本 このごろ考えること」  
会場：新潟市立大通小学校体育館



H20.12.7 講師：米長邦雄先生  
テーマ：「豊かな心を育てるために」  
会場：新潟市立大通小学校体育館

## 実績・効果

大通地区は、新潟市南区の北部に位置し、宅地開発とともに、発展してきたニュータウンです。そのため、歴史は浅く、まだはっきり地域の特色と呼べるものはありません。新潟市中心部へ通勤するサラリーマン世帯が多いため、地域のふれあいや地域の事業に関心が薄く、特に、子育て時代の家庭を如何に地域に目を向かせるかが課題です。

小中学校にも地域ぐるみで子供たちの育成に取り組むコミ協の姿勢を理解していただけており少しずつですが、前進しています。

地域コミュニティ協議会名称

## 西内野コミュニティ協議会

活動名称

「こぼとの会」の子育て支援活動

世帯数

約2,800世帯

## 活動内容

「こぼとの会」が発足したのは平成9年6月でした。

「小さくたって友だちがほしい」「ママだってお話したい」そんなキャッチフレーズで、就園前の母と子を対象に民生・児童委員の活動の一環として、月一回実施してきました。自由な雰囲気の中でゆったり過ごす時間は貴重との反応にやりがいを感じていましたが、もっと回数を増やして欲しいとの声にはなかなか応えられませんでした。

平成20年7月コミュニティ協議会福祉部の活動として、区からの予算配分も受けリニューアルオープン。会場もひまわりクラブの空き時間を利用できることになり一歩前進です。開催日も週一回となり、大変よろこばれています。民生・児童委員の他に、元「こぼとの会」利用者の母や幼稚園園長などボランティアも充実しました。

家にはない玩具で嬉々として遊ぶ子どもたち。ボランティアに抱っこされて眠る赤ちゃん。夢中で話し合うお母さんたちと共に、時には育児の相談も受けながら、地域の子どもたちのすこやかな成長の一助となりたくと願っています。



## 実績・効果

- ・開始時の子どもたちはもう中学生となり、地域の中に活動が定着してきています。
- ・一年に二回の保育園との交流や季節の行事、歌い継いでほしい歌の紹介や、子育てに関する情報も発信しています。
- ・祖父母の子育ても多くなり、若いお母さんたちとの交流も見られます。
- ・小さい子どもを連れて来るので、駐車場の問題が今一番の課題です。
- ・「こぼとの会」の存在や子育ての悩みを相談する場を知らない保護者をどうしたらよいのかも考えていきたいと思っています。

地域コミュニティ協議会名称

## 東青山小学校区コミュニティ協議会

活動名称

子育て支援事業「東青山すくすく広場」

世帯数

約3,700世帯

## 活動内容

## —「東青山すくすく広場」誕生—

平成20年度は西区の全15コミュニティ協議会を対象に、未就園児の親同士・子ども同士が交流する場を提供する子育て支援事業推進3カ年計画の初年度。

当コミュニティ協議会ではその意を快く受け、9月の開設にむけ準備を進めてきました。

頭を痛めた会場ですが、店舗と広い駐車場があり、地元住民はもちろん近隣町内からも人の集まりやすいジャスコ新潟店の全面的な協力を得て、文化教室の一室を確保。

会員である20の自治会にスタッフ募集の手作りポスターを配布、そしてチラシを一度ならず回覧し、地域の皆さんの理解を深めることができ、ようやくほぼ予定のスタッフ数が集まりました。休む間もなく、スタッフの皆さんには西区が実施した保育研修に参加してもらい、開設直前にはジャスコ新潟店の入口でチラシを配るなど準備に余念がありませんでした。

福祉部会が中心となり、西区との協働による「東青山すくすく広場」が多数の関係者が見守る中、9月19日（金）にうぶごえをあげ、予想をはるかに上回る約70組の参加があり、その盛況ぶりに驚きの半日でした。9月26日（金）以降も大変順調に推移しており、受付開始の午前10時30分から終了の午後0時30分までの2時間があったという間に過ぎ、毎回参加される多数の親子の皆さんから、あふれるほどの元気をいただき、スタッフ及び関係者一同心から感謝しています。



## 実績・効果

上記より、開設当日は70組以降、これまでの参加組数は、10月末日で合計235組、1回平均35組の参加実績です。

回を重ねても飽きがこないように、本の読み聞かせや手遊びや四季おりおりの行事を取り入れ、繰り返し参加してもらえる親子が1組でも増えるよう、一層の充実に努めたいと思います。

地域コミュニティ協議会名称

## 角田地区コミュニティ協議会

活動名称

海水から塩を作ろう

世帯数

約500世帯

## 活動内容

角田地区コミュニティ協議会の地域では、海水から塩を採っていた時代がありました。時代の流れと共に廃れていった伝統のある塩づくりを、地元小学生に協力してもらい、昔ながらの道具と方法で再現しようという企画です。

塩づくりの道具は、地域の方が以前使っていた物を保存してあり、お借りすることができました。不足の道具で簡単な物は、地域の大工さんをお願いし作っていただきました。

平成20年8月7日、砂浜をならして海水を撒き、塩田を作るところから作業は始まりました。小学生の協力で短時間で済み、天候にも恵まれて塩分を多く含んだ砂を集めることができました。

湿った砂が乾くまでの間、地域の大人と小学生との交流の時間を企画し、当時の話をしていただきながら天日で乾くのを待ちます。

昼食をはさんで、乾いた砂を集め、さらにその砂に海水をかけることで塩分濃度が通常の2倍程度の海水を取ります。塩分濃度2倍の海水を鍋で煮つめる作業は、塩づくりをすると聞きつけた地域の大人が積極的に参加協力してくれました。

午前8時30分に始めた作業も、午後4時過ぎには鍋の中に出現した塩を見ることで終了しました。



## 実績・効果

古い時代に地域の人たちが実際にしていた伝統の塩づくりを、当時の道具を使い再現してみることで小学生に知ってもらえました。また、普段交流する事の少ない地域のお年寄りと小学生との交流の場を作ることができました。空き時間を利用した、遊漁船での乗船体験やスイカ割りも、子どもたちが喜んでくれました。

採れた塩は更に天日乾燥し、協力していただいた方々に後日少しずつ分けました。小学生には、2学期早々にゆで卵を作り自分たちで採った塩を味わってもらいました。地域の歴史・伝統や海を通して自然や環境についても関心を持ってもらえました。

地域コミュニティ協議会名称

# 桃山校区コミュニティ協議会

活動名称

桃山地区元気な活力ある世代創出事業(三世代交流)

世帯数

約4,910世帯

## 活動内容

校区全体の健康増進と世代間交流を図るためのイベント開催を継続しています。

- ①エアロビクス体操（今後は、ゆったり体操など）
- ②綱引き大会（公式ルールにて）
- ③餅つき大会（その他、とん汁など）
- ④etc

世代の垣根を越えて出来る『体操』を行い有酸素運動にて、日頃の運動不足を解消し、日常でも活用可能な運動を取得し健康増進を図るため実施しています。

綱引き大会を開催し、地区毎や年齢毎など階層別展開を行い、全国大会を目指す所存です。

餅つき大会を全員体験参加型で行い、子ども用杵も用意し老若男女含め心をこめて突いた餅を食べながら地域交流を図ります。

事業運営には、地域を代表する企業及び学校のボランティアにて遂行し地域連携を重視して活動します。

安全面においても、細心の注意を払い、臨港病院様の協力を得て不測の事態に備えています。



## 実績・効果

地域の健康増進は、毎日の運動が重要である事が理解出来、健康に対する意識向上が高まることを期待します。

団体競技をとおして、地区毎の連携の大切さと全国大会という共通の目標が生まれ継続事業となります。

餅をたべる過程で様々な人との意思疎通と協力があつて出来ることを体験し、調和と同情する心や態度の必要性を再認識する事が出来ます。

地域コミュニティ協議会名称

# 下山地区コミュニティ協議会

活動名称

下山地区スポーツフェスティバル(下山オリンピック)

世帯数

約4,600世帯

## 活動内容

下山地区の小中学校は新潟市内でも最も歴史の浅い学校の一つです。日本海と大阿賀野川の左岸に接し、秀峰五頭を仰ぎ見る絶好のロケーションにあります。また、空の玄関「新潟空港」を校区に持ち、旧来の農家と新興住宅が隣接する自然豊かな地域です。

そうした環境の中で、新旧の地域住民の親睦と世代交流の一助になればと企画実行されたのが標題の「下山地区スポーツフェスティバル」です。地区のほとんどの自治会が参加し、町内対抗の熱のこもった数々の競技が実施されます。若いお父さんお母さんの真剣な応援にこたえて上がらない脚を必死で持ち上げ、目の色を変えて走るおじさんの顔は圧巻です。恥ずかしさを忘れてあんぱんにかぶりつくおばあさんの顔も負けずに圧巻です。

そうして下山の秋の一日が過ぎて、やがて五頭の山頂が白くなり、阿賀野川では鮭漁の赤い浮が水面を飾ります。

私たちはこの美しい自然を守り、地域住民が仲良く暮らせる町づくりをこれからも進めたいと思います。



## 実績・効果

今年が第11回大会でした。参加自治会数16、参加人数837名の名実ともに下山地区コミュニティ協議会の一大イベントとして定着しました。平成21年度の第12回大会から名称を「下山オリンピック」と改称して継続して行きたいと思っています。



地域コミュニティ協議会名称

## 東中野山小学校区コミュニティ協議会

活動名称

地域の茶の間

世帯数

約3,800世帯

## 活動内容

東中野山小学校区コミュニティ協議会では、平成20年の4月より東中野山地区にお住まいの皆様が気軽に交流でき、仲間作りのできる場所として「地域の茶の間」を月2回、第2・第4木曜日に会費100円を頂いて、猿ヶ馬場自治会館において、10時～3時まで開催しております。

4月と5月には「りんごの会」の方より、新潟弁での昔話の講話、7月には慰問サークル「松風の会」さんをお招きして、腹話術や手品をみなさまにお楽しみいただきました。また、お手伝いをしていただいている方々の御協力によって、お茶を立てていただいて、お茶の作法を教わったり、編み物、手芸などをして楽しく過ごしております。女性の参加者が多く喜んでおりますが、多世代（子育て中のお母さん、男性）の方の参加がもう少し、増えてくれたらと思っております。



## 実績・効果

平成20年6月からのゴミ収集についての疑問に思った事など、教えあったり、時々ニュース、孤独感の解消や高齢者の方の介護予防の情報交換の場や仲間作りの場所になってくれたらと思います。

近頃は参加してくださった方の顔も覚え、スーパーで買い物をしている時など気軽に声がけができるようになりました。

これからも、多くの方々から参加していただけるように努力したいと思っております。

地域コミュニティ協議会名称

## 大形地区コミュニティ協議会

活動名称

大形ふれあいウォークラリー

世帯数

約5,520世帯

## 活動内容

大形地区を中心に身体障がい者・精神障がい者・地域住民とのふれあいを目的として、津島屋公園運動広場周辺を一回りした後、小学生の樽はやしや全員でゲームをしたりして楽しんでいます。

また、小学校、中学校はもとより、高校、県立新潟女子短期大学の学生さんからもご参加いただき、学生間交流も行われております。



## 実績・効果

大形地区の児童・障がい児・高齢者の健全な育成と福祉の増進に寄与するため、平成20年度で13回目の大イベントと位置づけており、地域住民の連帯感の醸成及びふれあいの効果があったと思われ、地域住民の障がい者に対する理解が深まりました。

また、事業後には、小学校・中学校・高校・特別支援学校との間で交流が図られるなど、教育現場において新たな取り組みへの一助となりました。

地域コミュニティ協議会名称

## 南万代小学校区コミュニティ協議会

活動名称

ふれあい給食活動

世帯数

約4,500世帯

## 活動内容

ふれあい給食活動は、昭和58年に設立された南万代小学校区在宅福祉活動推進委員会の事業の一環として始められました。

- ①70歳以上の一人暮らしの世帯
- ②80歳以上の高齢者世帯
- ③寝たきり高齢者とその介護者
- ④65歳以上の身体障がい者

などを対象に、年4回、1回当たり平均100食を手づくりで調理し、配食しています。

当初は、南万代小学校区の一部地域（東地域）のみを対象として実施してきましたが、コミュニティ協議会の設立により平成20年度から南地域の一部対象者にも配食することとして、今後、校区全域の対象者に実施する予定です。



## 実績・効果

「買い上げ弁当は、高齢者向きでない。栄養面で偏っている」、「少しでも一人暮らしの生活を潤わせ元気づけるためにも、真心のこもった手づくり弁当」ということで、手づくりに切りかえ、そのよさが評判を呼んで、多くの希望者がいます。

対象地域を広めることによる、調理場所・従事者確保などの課題も多いのですが、サービスの浸透とともに、地域とのコミュニケーションも深まり、住みよいまちづくりの形成が期待されています。

地域コミュニティ協議会名称

# 万代地域コミュニティ協議会

活動名称

福祉施設等研修視察会

世帯数

約2,600世帯

## 活動内容

当地区における諸課題に取り組むための勉強会としての研修視察を開催しました。

実施日 平成20年2月29日 バス1台をチャーターし自治会・町内会長および民生・児童委員など、25名の参加がありました。

コースは白根や黒埼方面・駅南・ほんぼーと周辺

### 1. 旧万代小学校の跡地にかかわるもの

旧木場小学校跡について現場担当職員の説明を受け、発掘資料庫として利用している建物を見学しました。

### 2. 新規に明石通に建設が決まった福祉施設白根慈恵会についての内容

明石通に建設予定の施設の概要説明を受けました。その後、「白根やすらぎの里」「白根やすらぎの里ケアハウスやすらぎ」を案内いただき説明を受けました。

### 3. 駅周辺の開発状況

駅南開発工事現場を見学しました。

### 4. ほんぼーと周辺道路整備問題

ほんぼーと周辺の道路開発状況について資料に基づき説明を受け見学しました。

## 実績・効果

当地区における福祉施設の建設は初めてであり関心も高いものでした。

特に急な企画にもかかわらず、民生・児童委員の参加も多く、現在の福祉施設における現場の状況についてよく知ることができました。

今後の高齢化社会への地域としての対応、災害時支援のあり方にも関連があり参考となりました。

ほんぼーと周辺については地元ながら市よりあまり説明がなされていないとの総会等の発言を受け周辺整備について確認を行ないました。

地域コミュニティ協議会名称

## 長嶺地域コミュニティ協議会

活動名称

長嶺ふれあい給食会活動

世帯数

約 1,700 世帯

## 活動内容

平成7年、長嶺地区の高齢者の方々に手作りの給食サービスをと、長嶺地区連合町内会（主催）、東地区公民館、市食生活改善推進委員、地区民生・児童委員、日赤奉仕団など、大勢の人々の協力で始められました。月1回手作りによる給食、配食を実施しながら高齢者とのふれあいの機会を増やし、元気で長生きしてほしいと願い、世間話をしながら何気ない中に見守り、見守られるということができのではないかと思います。

配食数も年毎に増え、現在では70食以上になり、30人近くのボランティアで活動しています。中には80歳を過ぎた方も、一生続けられるボランティアと、生き生き活動しています。毎年9月には「お楽しみ会」を、公民館の共催を得て開催しています。高齢者と万代・長嶺保育園児との交流、公民館利用者によるアトラクションやお弁当昼食会を行い、にぎやかに世代交流が行われています。

平成20年7月には地区の高齢者の生活アンケートを、東地域保健福祉センターの協力を得て、地区民生・児童委員と共に実施しました。高齢者とのふれあいの機会になると同時に、高齢者の心身の健康のことや生活実態を知ることができました。

今では活動が広がり、コミュニティの部活動の中の健康福祉部として、コミュニティ活動の様々な活動に参加し、幅広く組織として機能を発揮しています。



## 実績・効果

長嶺地域は高齢化率が年々高くなっています。高齢者がより元気で生活することの大切さが求められています。健康長寿が一番です。健康福祉部としては、高齢者だけでなく老若男女大勢の人々に、健康に関心を持ってほしいと願っています。「私達のまち、私達の健康は、私達の手で」

地域コミュニティ協議会名称

# 紫竹山校区コミュニティ協議会

活動名称

講演会「老化は脚から」

世帯数

約4,700世帯

## 活動内容

紫竹山校区コミュニティ協議会の健康福祉専門部会では、介護が必要となる原因の50%以上が老化現象によるものといわれている事から、「老化は脚から」という講演を平成20年10月26日（日）に駅南コミュニティセンターで開催しました。回覧板でチラシを4,600枚配布しご案内したところ、当日は高齢者だけでなく若者の参加もありました。

講師は、新潟南病院リハビリテーションスタッフの皆さんにお願いし、

- ・「転倒予防に対する知識と簡単な運動」
- ・「口腔ケア（管理）」

について講演していただきました。

「転倒予防に対する知識と簡単な運動」では、話を聞くだけでなく、実際に体も動かし、「口腔ケア（管理）」では、入れ歯の管理などについてのお話がありました。

## 実績・効果

実際に体を動かしてみて、思ったほど体が動かないことや、入れ歯の手入れ方法、歯の重要性などがわかり、自分の健康について再認識できました。

転ばぬ先の杖ということか、参加者の皆さんは一生懸命取り組んでおられ、いろいろな交流を交わし、時間が過ぎることも忘れるほどでした。

地域コミュニティ協議会名称

# 両川地区コミュニティ協議会

活動名称

敬老会

世帯数

約 1,100 世帯

## 活動内容

地区のお年寄りがこれまで歩んできた長い人生における努力を称え、その労苦に対し感謝の意を表し、長寿を祝うとともに住民の敬老精神の高揚を図ります。

平成20年度は380名が参加し、駐在所長からの交通安全、振込め詐欺などについての講話を聞き、昼食を食べながらアトラクションで楽しんでもらいました。

アトラクションには、地区の皆さんによる踊り、コーラス、酒屋・割野小学校の児童による合唱、両川中学校の生徒によるブラスバンド演奏が行われました。



## 実績・効果

1カ月半程前からコミュニティ協議会、自治会、婦人部、学校、生徒、警察、社会福祉協議会、江南区が連携、協力して準備を行い、当日の昼食を挟んだ一時を地区内のお年寄りにゆっくり楽しんでもらいました。

地区住民あげて盛り上げることで、お年寄りへの敬老の精神を一層高めてもらう良い機会となりました。

地域コミュニティ協議会名称

# 小林コミュニティ協議会

活動名称

小林ふれあい地域づくり事業「こばふれ」

世帯数

約 1,140 世帯

## 活動内容

「高齢になっても、障がいがあっても、安心して暮らせる地域づくり」をテーマに、活動しています。普段から地域の人と声をかけ合って暮らしていることで、何かあったときに助け合うことができ、それが高齢になっても障がいがあっても安心して暮らせることにつながります。小林ふれあい地域づくり事業では、地域に住む皆さんが地域の人とのふれあいを大切に、支えあいの精神を持ち、できるときにはできることを助け合い、できないことは手伝ってもらうことが普通にできる「ふれあい地域づくり」をめざしています。

- ・個人としては、ふだんから地域の人とのふれあいをたいせつにしよう。子どもの頃から地域のふれあいの場に参加し、ふれあいの楽しさを知ろう。高齢になっても障がいがあっても、声を掛け合ってふれあいの場に積極的に参加しよう。
- ・家族としては、高齢になっても障がいがあっても閉じこもらずに、地域のふれあいの場に参加するようすすめよう。
- ・地域住民としては、地域づくり活動に関心を持ち、それぞれができることに積極的に参加しよう。高齢になっても障がいがあっても、それぞれの役割を発揮し、地域活動に参加しよう。
- ・各種団体としては、各種団体が地域の人とのふれあいを大切に、関係団体や関係機関と一緒に、それぞれの事業に取り組もう。

以上のことを方針に活動をしています。



こばふれ定例会



こばふれ一座（敬老会）

## 実績・効果

毎月第3火曜日に定例会を持ち、直近の地域事業の運営方法及びマンネリ化の見直しを図っています。現在は、こばふれ委員を元気部会（登山班）・仲良し部会（茶の間班）・キャット部会（PR広報宣伝班）・こばふれ一座部会（敬老会班）に分けて、それぞれ責任を持って携わり、また、他の部会の手伝いも戸惑うことなく行えるようになりました。



地域コミュニティ協議会名称

## 真砂小学校区コミュニティ協議会

活動名称

介護予防活動 「うきうき元気塾」

世帯数

約4,050世帯

## 活動内容

真砂小学校区地域には病院や歯科専門の短期大学が、また近隣地域にも病院、介護施設等が数カ所あり、医療や介護という面では恵まれた地域です。

わが地域も高齢化が進み、65歳以上の高齢者は4人に1人の割合になっています。高齢化が進んでも、援護や介護が必要にならずに皆元気に暮らしていけるように何かを企画し、実践していこうと、福祉部ではたびたび会合を開きました。

3月には新潟福祉医療学園の介護支援専門員の方をお招きして「ほのほの予防介護」の講演会を開催しました。この講演会が終わった後、参加された皆さんは「良かったね」と言いながら解散しました。

これを契機に次の催しにつないでいこうということになり、この後何をやるか、福祉部で話し合った結果、この地域には歯科大学があるので、協力をお願いして「歯に関すること」をテーマとすることになりました。

10月に、西区役所健康福祉課と真砂小学校区コミュニティ協議会共催、明倫短期大学協力で第1回目の真砂地区介護予防の活動として「うきうき元気塾 in 真砂」を開催しました。

内容は「お口は毎日の脳活性化の基本」というテーマでお話とゲームです。歯科衛生士さんや歯科衛生学科の学生ボランティアさんと一緒に、まずビデオを観ながらお口の体操です。ガムを噛み、口を動かしてリラックスしながら、お話を聞きました。そのほか脳活性化メニューの実施です。ロープを使って前・後・左・右！そしてお手玉ゲーム、2～4拍子の歌に動きをつけて歌いましょうなどなど、身体と頭を同時に動かし、出席された皆さんはにこにこ楽しんでいらっしゃいました。



## 実績・効果

身体と頭を同時に使いながら楽しめたことは、老化予防には効果的でとても良い企画であったと思っています。この種の催しは継続する事によって効果が期待できるでしょう。少人数（30人前後）で行うのが適当と思われるので、地域の中で場所を変えて同じことを何度も繰り返して良いのではないのでしょうか。ぜひ、2回目、3回目、とつないでいきたいと思えます。また、専門家の協力や行政との協働は不可欠であることを痛感しております。これからも一步一步地道に進めていきたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

# 黒埼南ふれあい協議会

活動名称

救急法講習会と水辺公園ウォーキングの実施

世帯数

約 1,070 世帯

## 活動内容

黒埼南ふれあい協議会は四つの事業部からなり、生活環境部会は「安心・安全な地域づくり運動」、健康福祉部会は「救急法講習会と水辺公園ウォーキング」、教育文化部は「みんなで“よもぎ団子をつくろう”」、広報部会は「身近な話題や活動の様子を随時に」のテーマを掲げて活動を行ってきました。

このたびは、健康福祉部会の活動の特集いたします。

平成20年7月に救急蘇生法とAED（自動体外式除細動器）の活用法を、夏場を迎えて、屋外での活動が多くなるにつれ、災害や事故、特に夏場の水の事故など、子どもに限らず地域での緊急時に応急手当が必要になることも予想されるということで、当協議会健康福祉部会と黒埼南小学校PTAが呼びかけて実施しました。

講習会当日は、地域住民や保護者約70人が参加して、新潟市西消防署黒埼出張所の小隊長以下4人の隊員が指導されました。最初に応急手当についての講演があり、講師は「救急車が来るまで手をこまねいていると救命のチャンスは大きく遠ざかる。応急手当は「勇気」と「やる気」があれば、人の命は助かる可能性が大きい」と強調していました。引き続き、けがや病気におそわれた時の対応について実技指導を受けました。

平成20年10月には、「健康づくりは運動から」のテーマを掲げて板井、木場、黒鳥、北場地区の住民に呼び掛けて、黒鳥地区水辺公園（緒立橋～新田橋）内をウォーキングしました。ウォーキングは気軽にできるスポーツです。ただ「歩く」だけでなく、風景を眺めながら、会話を弾ませながら、カラダと心を癒し、地域交流も果たすなど楽しい時間を過ごしました。



## 実績・効果

救急法講習会参加者は、救急蘇生法とAEDの活用法の具体的な知識と技術を学ぶことができました。また、広報紙を通じて地域住民にも分かりやすく解説をいたしました。ウォーキングについても、身近な健康管理法であることの啓発を紙面を通じて行いました。

地域コミュニティ協議会名称

## 漆山地域コミュニティ協議会

活動名称

平成20年度漆山地区敬老祭

世帯数

約1,100世帯

## 活動内容

漆山地域は旧巻町の区域内にあり、昭和30年1月1日、他の4村（峰岡村、松野尾村、角田村、浦浜村）とともに巻町と合併した旧漆山村の区域から成っており、北陸自動車道巻潟東インターチェンジ周辺の都市計画用途地域指定部分を除くと、ほとんどが水田で占められている地域です。

昭和43年から9月15日が「敬老の日」として祝日となっていますが、当地域ではそれよりかなり前から、地域の高齢者を敬い、感謝の意を表し、幸せをお祈りする「敬老祭」を毎年開催してきており、記録がないため正確な開始時期及び当初の実施主体は定かではありませんが、おそらく50年近い歴史があるものと思われます。

近年は、西蒲区社会福祉協議会の下部組織にもなっている漆山地区社会福祉協議会が、自治会長、民生委員、福祉女性部などの協力を得て実施しています。

漆山地域コミュニティ協議会が平成18年8月に設立されたことにより、協議会の活動・事業計画を協議する中で、地域における大きな事業の一つである「敬老祭」をコミュニティ協議会の主催で実施することとし、実務の主管については社会福祉協議会に担っていただきながら、平成20年10月5日の日曜日、漆山小学校体育館を会場にして220名余りの高齢者を招待し「敬老祭」を実施しました。



## 実績・効果

平成20年度は初めての試みでしたが、地域のさまざまな組織・団体等で構成されているコミュニティ協議会的主催とすることにより、これまでの自治会長・民生委員・福祉女性部の協力はもちろん、保健福祉部会を中心とした協議会の支援が可能となり、地域が一体となって実施するという機運の醸成が図られ「敬老祭」の意義が一層高まっていくものと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

## 南浜地区コミュニティ協議会

活動名称

不法投棄防止活動

世帯数

約2,000世帯

## 活動内容

南浜地区は以前より不法投棄に悩まされており、特に浜辺の山林地域には大型ゴミが捨てられて、個人や単一自治会では解決出来ない長年の懸案事項でした。

コミュニティが発足し地域の課題を検討した際、不法投棄ゴミの撤去と防止が活動計画の中に位置付けられ、環境部会を中心として行動を開始しました。

## ①不法投棄ゴミの撤去

地域パトロールや地域住民からの通報に基づきゴミの場所・量を確認し、コミュニティ役員や地元自治会、さらには地元企業の皆さんからも応援をいただくとともに、行政との協働により冷蔵庫・洗濯機・タイヤ等の大型ゴミを撤去しました。

## ②不法投棄防止活動

地域パトロールとして捨てられやすい場所や幹線道路を、また防犯パトロールを通じて通学路等の点検を行い、その際、不法投棄防止パトロールのマグネットステッカーを役員の車両のみならず、地区内にガス基地を所有する企業のパトロール車にも貼ってもらい注意喚起を図りました。更に、夜光塗料の看板を作製して各自治会に配布し、重点箇所を設置しました。

また、捨て易い環境をなくすという視点から、道路沿いの雑草の刈り払いを実施するとともに、小学校の児童からチューリップをプランターに植え付けてもらい、道路沿いに並べて花による投棄防止活動を行いました。



## 実績・効果

不法投棄を地域全体の問題としてとらえることにより、自治会の枠を超え、企業の応援も得て大量の大型ゴミを撤去することが出来ました。

撤去作業を通じて、地域が一体となることの重要性を再認識するとともに、不法投棄防止の意識啓発が高まりました。

看板だけでなく、プランターを設置した花による防止活動は効果的であるとともに景観の美化にもつながりました。

これらの活動を継続して定着させることが今後の課題であり、コミュニティの果たす役割と考えております。

地域コミュニティ協議会名称

## 濁川地区コミュニティ協議会

活動名称

地域環境整備活動

世帯数

約2,600世帯

## 活動内容

地区内を流れる新発田川の両岸500m及び新崎駅周辺の植栽等の環境整備活動を行っています。

新発田川の両岸は、近隣の小中学校の通学路になっており、そこを通る小中学生や地域住民の憩いの空間とするべく「虹いろの小道（花と緑の散歩道）」と名付けて平成6年から活動を進めており、今では地域住民、小中学生が一体となった活動になっています。

季節ごとにスイセン、チューリップ、菜の花、アジサイ、マーガレット、コスモス等の花が一面に咲き、通る人の心を和ませています。

また、新崎駅周辺は駐車場や空地等が多く、ポイ捨てごみも多いことから、花壇などで憩いの場を作るなど環境美化をすることにより、ポイ捨てごみを減らし地域のイメージアップを図るため、平成20年から活動を始めました。

初年度は、地域住民・中学生など約100人で空地の除草や花壇作り、プランターの設置、植栽等を行いました。来春からは、様々な花が秋まで咲き、これまでと違った駅周辺になることを期待しています。

これらの活動は、継続することで成果がでるものであり、今後も地域、学校が連携して活動内容などを検討しながら続けていきたいと考えています。



## 実績・効果

この活動は、地域が一体となり、継続して実施していくことで、住民に地域への愛着心を醸成するとともに環境美化について関心が高まることが期待できると思います。

地域コミュニティ協議会名称

## 葛塚連邦：やまたい国

活動名称

善堀川再生活動

世帯数

3,710 世帯

## 活動内容

善堀川は、住宅地を流れる全長約1.8kmの農業用水路です。かつては、田園地帯の清流でしたが、宅地開発が進み、生活排水が流れ込むようになり、ゴミの不法投棄などもあって環境の悪化が進みました。また、農閑期には用水が止まることにより、悪臭がするようになりました。

付近の住民から、このような環境を改善して欲しいということで、行政や土地改良区などへお願いしてきましたが、問題もありませんでした。そこで、平成14年に立ちあがった地域コミュニティやまたい国で取り組もうということになりました。

平成15年には、やまたい国のコミュニティ推進員が中心となって、善堀川を以前のように「ホタルが舞い、魚が住み、子どもたちが安心して遊べる川に再生しよう」という内容の紙芝居を作り、地域の皆さんへのPR活動を始めました。

平成16年から、地域の住民が参加して、川底の泥上げや草取りを2回実施しました。平成17年からは、川や土手の清掃活動を行うと共に、粗朶そだ工法による護岸づくりに着手し、柳、水仙、あやめを植栽してきました。

粗朶による護岸は、1年に30mから40mくらいずつ延長してきています。平成20年によりやく130mとなりました。剪定や除草など新たな作業も出てきていますが、地域の環境をよくするためにみんなで力を合わせています。



整備作業の様子

## 実績・効果

善堀川に小魚やザリガニが帰ってきて子どもたちの遊ぶ姿がみられるようになりました。毎回の作業日には、80人から100人の住民が参加しています。また、普段から川付近の美化にも気を配るようになり、不法投棄もほとんどなくなりました。粗朶による護岸整備により、両岸には柳や花を植栽し、きれいな環境がもどってきました。農閑期（9月～3月）に用水が流れないため、その間の水の確保が今後の課題です。

地域コミュニティ協議会名称

## 岡方地区コミュニティ委員会

活動名称

はさ木と花の岡方街道事業

世帯数

約 1,060 世帯

## 活動内容

平成6年、岡方地区内の広域農道の沿線歩道側、延長1,756mに稲架木（ハンノキ）<sup>はさき</sup>330本を植栽、また、花壇（1.2㎡）330壇を設置、以来当コミュニティ委員会で管理運営しています。これは、昔の農村風景を再現し、ドライバー等に潤いとやすらぎを感じてもらうことがねらいです。

花壇は毎年、地区の16自治会長の会議で花の種類を選定しており、これまでに、マツバギク、ジニア、日々草、コスモス、チューリップ、マリーゴールド等々の花を咲かせています。

花の種蒔き、育苗等は、岡方コミュニティセンターのビニールハウスで、地区の老人クラブやボランティア団体が実施しています。

花壇への施肥と定植、その後の除草、水やり、病虫害防除、補植、最後の整理等は16自治会で按分して実施しています。

また、はさ木の病虫害防除の薬剤散布や枝切り等も各自治会が按分し管理しています。



## 実績・効果

当該広域農道は、市内外の車輛通行量が大変多く、景観の良いカントリーロードとして好評です。

田園の中の道路で、風当たりが強いこと、花の連作障害等のため満足のいく花が咲かない年もあり、花の選定に苦慮しています。（市の園芸センターにも相談）

地域コミュニティ協議会名称

## 曾野木地区地域づくり協議会

活動名称

曾野木地区一斉清掃

世帯数

約3,700世帯

## 活動内容

曾野木地区は、市営住宅を中心とした団地群と旧来からの農村部で構成されており、田園地帯の中に高度な都市機能（高速道路・ランプ等）や集落、集積された街区が広がっている地域です。

曾野木地区地域づくり協議会では、地区の環境整備として地区内の高速道路周辺（緑地帯、側道、路側フェンス付近等）は特に不法投棄が多く問題となっているため、毎年春季に各自治会、地域団体、土地改良区、行政が収集、運搬、処分を役割分担し一斉清掃活動をおこなっています。



## 実績・効果

美観の維持、環境の保全、道路の安全確保が図られます。

毎年行われており、平成20年度の参加者は約120人、タイヤや電化製品、約4トンの一般ゴミ等が集められ、処分されました。

地域の自治会、団体、土地改良区、行政が役割を分担し行うため、協働の意識の高揚にも役立っています。



地域コミュニティ協議会名称

# 坂井輪中学校区コミュニティ協議会

活動名称

ホタル飛び交う一番堀をめざして

世帯数

約8,600世帯

## 活動内容

当コミュニティ協議会のエリア内に、7つの自治会に渡って約2.7キロの一番堀排水路があります。流れが悪く、平成19年の8.28豪雨の際には堀が溢れて民家に水が押し寄せました。

付近自治会が清掃に取り組み、年一度は市によって泥さらいが行われていますが、天然ガスが出る地帯なためか油の混じったヘドロが溜まりやすく、アオモなどの水草もすぐ繁茂してしまい、夏場の異臭は付近住民の頭痛の種です。

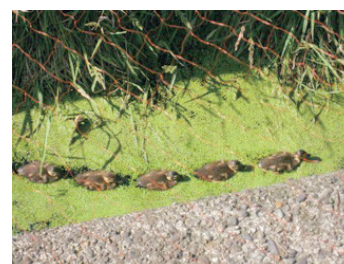
しかし、坂井輪段丘からしみ出る地下水や雨水、下水未整備地域の排水の受け皿として大事な役割を果たしている堀なので、埋めてしまうわけにはいきません。

コミュニティ協議会の会議の中で、「一番堀をなんとかしようじゃないか」「埋めてしまえないのなら、水をきれいにしよう」という声があがり、「子どもの頃一番堀で鯉を釣った」「昔じいさんがホタルを見たらしい」という証言を支えに、状況調査から始めました。

その結果、堀の底にはコンクリートの段差が多く、水の流れを阻む要因になっていることがわかりました。また、捨てられたゴミも堀が詰まる原因となっています。地下水そのものに汚濁の原因があるのではないということもわかりました。なぜなら、一番堀の土手でホタルの飼育に成功したからです。手製の浸透柵に地下水を溜め、ソーラー動力で流れをつくり、環境を整えました。流れる水は堀に溜めて鯉を飼っています。

平成20年6月にはホタルが飛び交いました。地域の子もたちには生まれて初めて見るホタルです。ホタルが飛ぶのはまだ一箇所ですが、次の候補地から名乗りがあり、来年は坂井輪で生まれ冬越ししたホタルが一番堀のあちこちで飛び交いそうです。また、一番堀の中でカルガモが雛を育て、その時期は行きかう人々の憩いのスポットとなりました。

しかし、堀そのものの水の浄化にはまだまだ課題が多く、知恵を寄せ合って汗を流しながら進んでいかねばならないと考えています。



## 実績・効果

ホタルのビオトープや鯉いけすの生簀を造成した当初、子どもたちにいたずらされて壊され、がっかりしたことがありました。しかし、ホタルが飛んだりカルガモが雛を育てたりする一番堀は、今では住民から愛される存在へと変わりつつあります。2.7キロのうち、数十メートルの変化でしかありませんが、環境整備へ向かうキーポイントは住民意識だと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

## 新津中央コミュニティ協議会

活動名称

にいつの史跡を訪ね歩こう その2 「石油の発祥地を訪ねる」

世帯数

約4,000世帯

## 活動内容

「にいつの史跡を訪ね歩こう」を平成19年度からの引継ぎテーマとして事業を実施しました。(なお平成20年度は新津中央スポーツ振興会との共催による合同ウォーキングです。)

石油にかかわる史跡を訪ね、金津の中野家と双壁を為した新津の真柄家探訪および石油の発見の地「煮坪」等を訪ね、途中、当協議会のスポーツ振興会のスタッフによる心のこもった豚汁をいただき、なごやかな昼食を楽しみました。

にいつ石油の発祥地コース

新津本町二番館(出発) - 明治天皇新津行在跡 - キンカ地藏 - 安吾文学碑 - 柄目木船附場 - 真柄家大ケヤキ - 二之堰 - 桃源橋石油 - パイプライン跡地 - 煮坪(石油発祥地) - 熊沢トンネル(石油運搬用道路) - 手掘石油井戸 - 秋葉湖キャンプ場(豚汁・昼食) - 秋葉神社 - 良寛歌碑 - 七色の池 - 幸清水(解散)



## 実績・効果

前年度の反省にもとづき小学校にポスターを掲示しチラシを配布、各町内会回覧等により周知を図った結果、危ぶまれる天候ではありましたが前年度より多数の参加者を得ました。

参加者は自分たちの住んでいるところにこのような場所が存在すること、また先人の苦勞により現在があることを理解しつつ感動をおぼえたようです。

今後もこの種の企画を継続していきたいものです。

地域コミュニティ協議会名称

## 阿賀浦コミュニティ協議会

活動名称

芸能祭

世帯数

約 1,300 世帯

## 活動内容

この芸能祭は阿賀浦コミュニティ協議会になってから2回目ですが、中新田・大安寺・東金沢の公民館時代からでは二十数回になる事業です。収穫を喜び祝う意味で農村地区に密着した神楽舞など伝統的芸能文化であったと言えます。

阿賀浦コミュニティ協議会設立に伴い東町、新金沢町という新興住宅の住民が加わることによって、この芸能文化活動が今まで培われてきた住民の絆とともに受け継がれ、さらにそれが広がり深まっていくことを願いながら平成20年度の芸能祭を実施することにしました。

阿賀小学校体育館を会場に約500人の観客が5町内60人が演じる22種目の熱演に見入っていました。

運営には年度ごとに当番町内が会場設営・舞台装置(含音響装置)・反省慰労会設営などに当たり、計画は町内会役員会で立案し、コミュニティ協議会運営委員会の承認を得て実践に移しました。

【種目】①伝統芸能②舞踊③三味線④コーラス⑤レクダンス⑥寸劇ほか



## 実績・効果

今回は従来の古風な演目に加え、学童保育(キッズクラブ)の子どもさんたちの総踊り「ヨサコイしゅうちしん」やレクダンスのような今様な演目がりズムに合わせ元気いっぱいに繰り広げられる場面もありました。

昨年度町内個々に演じていた銭太鼓は大安寺、東金沢、新金沢町合同で交流を工夫した演出で行なわれました。さらに銭太鼓の演者と交流があるという阿賀町豊実のサークル8人の方が応援に来場されました。

芸能祭の事業全体をとおして3町内の分館時代からの交流の絆が5町内につながり、広がり、さらに深まったという様相が見受けられたことは大変嬉しいことであったと評価したいと思います。

地域コミュニティ協議会名称

# 金津コミュニティ振興協議会

活動名称

ふるさと塾

世帯数

約2,570世帯

## 活動内容

金津地区は従来から歴史や伝統を大切にする気風があり、小学校等でも昭和初期から郷土教育に熱心な土地柄として近隣にも知られていました。

しかし近年は土地開発等による団地化で、金津の風土や気風が薄れつつある状態であります。

今日の地域づくりやコミュニティの重要性を思い、地域住民が地域の歴史や伝統を学ぶことによって、地域に親しみ、人の絆の大切さを認識すること等を目的とした「ふるさと塾」を開設することとしました。

平成20年度を初年度とし「八幡山遺跡あれこれ」・「地域内のお寺巡り」・「地域内の神社あれこれ」・「地域に伝わる昔話、伝説」・「金津地域の生んだ偉人、築いた人々」として、5回の講座を設け実施しました。

講座資料として金津小学校で昭和7年に発刊した『郷土趣味読本』を復刻し、かつての金津地区の精神風土の一端に触れることとしました。参加者は当初の予想を上回る70名でした。

今後は将来を担う子どもたちの参加機会を設け、学校の総合学習等の活用について協議し、また世代間の交流等老人と子どもたちの触れ合いの場としても活用していきたいと思っております。



## 実績・効果

これまで地域の歴史や伝統に関心のなかった人たちや、その年代層の人たちの中からも参加してよかったという声が聞かれ、次年度も是非「ふるさと塾」を開設してほしいという希望が多く寄せられています。

人々の心が通い合う地域づくりには、体育や文化行事も大切なことの一つですが、地域に誇りの持てるような歴史や伝統を学び、学習活動を通じ地区民が触れ合い親しみのある地域づくりに今後も努めていきたいものです。

地域コミュニティ協議会名称

# 小須戸小学校区コミュニティ協議会

活動名称

「地元学」小須戸町並み景観まちづくり研究会支援事業

世帯数

約 1,700 世帯

## 活動内容

地元に残された歴史的に貴重な財産の再発見をテーマとして、地域が持つ素晴らしさを地元の人々と共に認識しながらまちづくり活動につなげることを目的としています。

平成19年度に「地元学地域のたから発掘活用事業」の補助金をいただき、多くの地域住民にその内容を知ってもらい、小須戸地域の町並みの価値を再認識させる活動を行いました。

他地域と比較しても遜色の無い小須戸の町屋、雁木など、歴史的建物に着眼し、地域に埋もれた「小須戸にしかない素晴らしいもの」を住民と共に再認識してもらうための勉強会を7月と9月に開催。さらに、11月には実際に町並みを歩いて歴史的価値のある建物の中を見学させてもらい、住んでいる人の話を聞く「まち歩き」を実施。12月には新潟大学の准教授を招いて「町並みを活かしたまちづくりについて」の講演会を行いました。



## 実績・効果

平成20年度は「歴史的町並み再発見」をテーマとしたまち歩きを5月に実施。更に、先進地である村上の町屋視察を企画、住民に参加募集をし、30名で日帰り研修を行いました。

平成21年度は、これまでのまち歩きや先進地視察などで得た内容を活かした「まち歩きマップ」を作成し、9月にはマップを利用したまち歩きを行う予定です。

今まで見過ごされてきたもの、地域の住民ですらその歴史的価値を知らなかった町並みの良さを再発見・再認識し、地域の宝としながら、それに磨きをかけていく。地域の貴重な歴史的資源として、住民が認識し、それを活用しながら地域を大事に育て、子どもたちにとっても自分の町を誇りにすることが出来ます。

また、他のイベントなどと連携しながら歴史的な町並みに風情を感じながら散策できることにより様々な活動や波及効果につながっていくことが予想され、地域の活性化、今後のまちづくりにもつながることになります。

地域コミュニティ協議会名称

# 白根コミュニティ協議会

活動名称

白根のたから発信プラン事業

世帯数

約3,500世帯

## 活動内容

平成19年度に「白根のたから探検隊」として衰退傾向にある地域の価値（たから）を探し出す取り組みをしました。4回の講座を開催する中で、1回は「まち歩き」を実施し、最終的に白根の魅力を伝える13のプロジェクトを作成しました。

平成20年度は「白根のたから発信プラン」としてプロジェクトを具体化するために検討委員会を立ち上げました。検討委員会は8月から月1回開催し、その中で、今年度は白根の四九の朝市にスポットを当てることになりました。白根の朝市は、その歴史は古く、300～400年の歴史をもつと言われていたのですが、大型店舗の進出などの影響により、店の数、来店者数ともに半減したと言われています。

地域内外に参加を募った結果、38名が参加し、11月9日に「白根の市日を探検！！」を開催しました。買い物したり、写真をとったりそれぞれ自由に散策する中で、途中で集合し、市場管理組合長のお話を聞きました。また、市日散策の後、白根児童センターを会場に市日写真のフォトコンテストを開催しました。

初めて市日を歩いた人や数年ぶりという人もいて、スーパーとは違う市日の雰囲気や新鮮な野菜、果物、花などに驚いていました。そして、次回も開催してもらいたいという感想を多くの方からいただきました。

来年度は「まち歩き」を秋の定番として実施していきたいと考えており、さらには白根大凧合戦で凧づくりからの参加体験型のプロジェクトを検討委員会で計画しています。



市場管理組合長のお話



市日 四と九のつく日に開催

## 実績・効果

平成19年度提案された13プロジェクトのうち、平成20年度はそのうちの1つを実施しました。初めてということもあり、参加者がなかなか集まらずに苦労しましたが、老人クラブの声掛けによるお年寄から、児童センターを利用している子どもといったさまざまな世代の方が交流する機会となりました。また、伝統ある白根の朝市、さらには新鮮な梨やぶどうなどの白根の特産物に触れ、地域の魅力を知ることができました。

この事業をきっかけにして、交流人口の拡大、市日や商店街の活性化が図られるよう活動していきたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

# 大野校区ふれあい協議会

活動名称

郷土・黒埼の今昔を聞く会

世帯数

約3,200世帯

## 活動内容

私たちの暮らしているまち「黒埼」。黒埼町という名称は新潟市と合併したことにより残念ながらなくなってしまいました。しかし、歴史のある郷土・黒埼の今昔についての知識を深め、また、若い世代に語り続けることにより、歴史・伝統・文化が引き継がれていくこと。さらに、心豊かな人格を形成することを願って黒埼郷土史講演会を実施しています。この「郷土・黒埼の今昔を聞く会」は、平成18年度から毎年開催しています。

講師には、地元、黒埼在住で「黒埼の今昔」などを執筆された宮田栄門先生をお招きし、大変貴重なお話を聞かせていただき「黒埼」に関する知識を深めています。

第1回の講演会では、黒埼村が誕生するまでの移り変わりや山田・善久が黒埼村に合併した経緯、大野の娯楽施設などについてのお話を聞かせていただきました。

また、第2回の講演会では、「新潟電鉄の開通から廃止まで」と題して昭和8年の電鉄開通までのエピソードや土地の買収にかかる苦労話などをビデオを見ながら紹介していただきました。それから、平成10年8月4日の大水害により多くの方が被災されました。その被害状況について、当時の黒埼町役場（現黒埼出張所）付近の様子をビデオで映像を見ながら説明をしてくださいました。

そして、第3回の講演会では、「郷土黒埼の歴史探訪」と題して越後七不思議のひとつ、親鸞上人の焼鮎伝説や波切りの御名号などの有名なお話しと善久・山田に陸軍飛行場があったこと、そして、宮田先生が自ら作った「郷土黒埼の歴史絵図」を見ながら昔の地形や出来事などのお話を聞きました。



興味深く聞き入っている参加者



郷土黒埼の歴史絵図

## 実績・効果

この講演会は、平成18年から毎年開催しており今年で3回目を数えました。

黒埼の歴史・伝統・文化を詳しく聞くことができることから、興味のある方が多数参加しております。

普段、隣近所でも顔を合わせる機会が少なくなっているところですが、こういった機会に進んで参加することにより、地域の連帯感が強くなることを期待しています。

地域コミュニティ協議会名称

# 巻地区まちづくり協議会

活動名称

まき夏まつり

世帯数

約5,700世帯

## 活動内容

当協議会は、旧巻町の市街地を中心とする人口16,000人規模のコミュニティ協議会です。

新潟市内の夏祭りのトップを切って行われる「まき夏まつり」は、平成18年度以前は行政が主導的に祭りの協賛行事を行っていましたが、平成19年度からは巻地区まちづくり協議会が他の団体と連携し、まつり実行委員会を立ち上げ、中心となって運営しています。

祭りの準備は、2月中旬頃から各方面との日程の打ち合せに始まり、露店の準備、花火の募集、協賛金のお願ひ等、手分けをして進め多忙を極めます。

祭りの初日（宵宮）は「巻甚句」と「やかたおけさ」を踊る大民謡流しで始まり、2日目は巻神社の神輿渡御にお伴する大人山車や子供山車、花火大会などが行われ、最終日は昼間の協賛行事の他に、市長を初めとして多数の来賓を招き、迫力あるやかた竿燈で幕を閉じます。

まき夏まつりは、地域住民が参加して盛り上げる当地域の最大の催しです。江戸時代から続く伝統ある祭りを地域全体で守り、育てていきたいと思ひます。



## 実績・効果

まちづくり協議会が実行委員会の中心的役割を果たすようになったので、協賛金や花火等で個人的に協力してくれる人が多くなってきました。一人一人が負担することで、「自分たちのまつり」という意識が強くなってきました。



地域コミュニティ協議会名称

# 峰岡地区コミュニティ協議会

活動名称

北国街道のPRと環境美化

世帯数

約 1,300 世帯

## 活動内容

江戸時代に脇街道として整備された北国街道は、峰岡地区はもとより西蒲区としても大切な文化遺産であり観光資源です。

それを広く地域内外へPRし、環境を整備して守っていくことが大切であると認識し、平成20年度は以下を計画・実施しました。

### (1) 北国街道名所旧跡めぐりとパンフレットづくり

10月13日に開催、地区の人はもとより市内各地域から大勢の皆さんの参加がありました。

講師2人に道案内をお願いし、街道沿いの馬頭観音、古い道しるべ、芭蕉句碑、三根山藩歴代藩主の墓などを見学しました。

この後、北国街道のパンフレット2,600部を作成、地区の各世帯と市内各所に配布し、理解とPRにつとめます。

### (2) 北国街道クリーン作戦

11月16日に各自治会から大勢の参加を得て、北国街道を歩きながら、空き缶、ペットボトルなどのゴミひろいを行いました。

今後も、環境美化につとめます。



## 実績・効果

北国街道めぐりを実施した後、各自治会の関係者からコミュニティ協議会内に観光を考える部会をつくってはどうか、という意見が出ています。

組織の充実と地域の人たちの北国街道への理解を深める一助にしたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

## 西川地域コミュニティ協議会

活動名称

西川まつり傘鉾人形製作後継者育成事業

世帯数

約3,600世帯

## 活動内容

西川まつりの傘鉾行列は、江戸時代から続く伝統ある祭事です。

西川まつりの時期になりますと、地域総出でまつりの準備が行われ、特に各町内から出される傘鉾人形（傘の上に乗せる、歴史上の人物などをモチーフにした人形）は、各町内が競って製作し、傘鉾行列を盛り上げているものです。

しかし、今まで傘鉾人形製作に携わっていた方々が高齢となり、人形製作が困難な状況になりつつあります。人形の製作が出来ないからといって、この伝統ある傘鉾行列をやめるわけにはいかないこともあり、だからと言って、京都等から人形を購入するとなると、数十万円の経費が掛かることになり、これを各町内で負担するということが非常に難しい状況です。

この状況を乗り越えて行くために、コミュニティ協議会、商工会、町部自治会、町内会の皆さんで協議した結果、人形製作の後継者を育成し、傘鉾行列を継承していくこととしました。平成19年度から「地元学地域のたから発掘活用事業」を活用して、コミュニティ協議会が中心となり後継者の育成事業を実施しています。

現在、月3回を目途に経験者の技術指導を受けながら実際に傘鉾人形製作に携わってもらい、約6名の方を傘鉾人形製作者として養成しているところです。



## 実績・効果

平成20年新たに製作した人形は11体で、大きな成果が上がっています。技術的には未熟な点も見られますが、今後が期待されます。

この年も傘鉾行列は盛大に行われ、町内の皆さんにも「良くできた」と好評で、後継者の育成が進んでいることに安堵している様子が見られました。

地域コミュニティ協議会名称

## 長浦コミュニティ委員会

活動名称

長浦めぐりウォーキング

世帯数

約 1,890 世帯

## 活動内容

長浦コミュニティの範囲は、自然豊かな田園地帯で、中学校3校、小学校4校にまたがっており、地域でひとり暮らし高齢者が増える中、少子化で子どもが群れて遊ぶ光景も見あたりません。それら学校区の交流を積み重ね地域全体を元気にとの趣旨で開催されています。平成14年から実施、平成20年で第7回目を数えました。

長浦農村公園（旧長浦中学校跡）を出発、到着地点として、4 km、8 km コースを設定してあります。農業用水に大切な一級河川駒林川の堤防沿いから、「城の渦跡」「長場堰」「清掃センター」をめぐり、のんびり歩きます。スタッフ世話役のメンバーは、コミュニティ委員、子供育成会、体育指導員、交通指導隊、交通安全協会等の40名以上で、誘導班は、長浦コミュニティ防犯ベストを着用することで、地域防犯にも貢献しています。交通安全の黄色、ピンク色ののぼり旗を道路に掲げ交通安全にも役立っています。開会式は、挨拶のあとジュニアマーチングバンドとよさかの演奏でオープニング演奏とパレード、準備体操を体育指導員の元気な躍動のもとで実施します。ゴール後は、給食ボランティアの人たちのつくった、温かいトン汁を食べ懇親会を行います。毎年各自治会、老人クラブの人たちも多く100人以上の参加者同士の交流を図っています。

長浦地区は、自然も心の温かさも最高、今後も地域住民に愛され、親しみのある活動にしていきたいと思います。



## 実績・効果

野外での催し物の「長浦めぐりウォーキング」のおかげで、顔見知りが増え、挨拶をすることにより、地域で子どもを見守る体制、環境が整いつつあります。地域の老若男女、元気で生きがいを持つ地域活性化の効果がありました。

地域コミュニティ協議会名称

# 早通地域コミュニティ委員会

活動名称

みんなで作り上げた伝統行事「早通ふるさとまつり」

世帯数

約3,400世帯

## 活動内容

早通ふるさとまつりは、『将来にわたって子どもたちの思い出に残るもの』『世代を越えた地域交流の場』として、昭和48年有志が手作りの花車で町内をまわるといふものから始められました。しかし今では、その規模は早通地区全体に拡がり、2日間の期間中で延べ5,000人ものひとが参加する大規模なおまつりになりました。

早通地域コミュニティ委員会では、このおまつりのために「ふるさとまつり実行委員会」を立ち上げ、地域住民・企業から協賛金をいただき、おまつりの企画・準備・運営を行っています。

おまつり第1日目は、早通太鼓・幼保園児によるよさこい踊り・早通中学校吹奏楽部による演奏から始まり、自治会ごとの手作り山車によるパレード、そして夜の民謡大会へと続きます。おまつり第2日目は、駅北口に「にじますのつかみ取り」駅南口に「ロイヤルエクスプレス」という4両編成の電車型の遊具が登場し広場を走行します。これは子どもはもちろん大人にも大人気のイベントです。そして夜には演歌歌手を招いての歌謡ショー、また早通ふるさとまつり開催35周年を迎えた平成20年は、総額35万円を賞金（地元の商店等で使える金券）とした「35万円〇×クイズ」を実施しました。

毎年工夫を凝らし、地域全体が参加し楽しめるおまつりを目指しています。



幼保園児による“よさこい踊り”



おまつりを楽しむ子どもたち

## 実績・効果

平成20年で35回を数えた早通ふるさとまつりは、地域に欠かせない行事として定着しています。また、規模も大きくなり様々な年代の人たちが関わるようになりました。

地域のみなさんの協力と情熱を大切に、地域全体で作り上げていくような、地元密着型の「ふるさとまつり」が継続していくよう、より一層の充実に努めたいと思います。

地域コミュニティ協議会名称

## 豊照地区コミュニティ協議会

活動名称

地域内の交流事業

世帯数

約 1,800 世帯

## 活 動 内 容

当地区のコミュニティ協議会は各部会とも活発に活動しています。

年間行事をみても、

春には、信濃川河畔の“ゴミ拾い”をしながらの「健康ウォーク」

小学校の運動会に地域住民も参加する合同の「運動会」

夏は、ささやかながら模擬店も出店する「夏まつり」

秋は、「高齢者交歓会（演芸会）」、「防火防災訓練」、「球技大会」

それに、「クリーン作戦」と称しての“チューリップの植え込み”や  
通学路および学校周辺の“ゴミ拾い”

12月には、親子そろっての「ケーキづくり」

年が変わって、「豆まき&軽い運動大会」

行事の合間には、日赤職員や消防署員、警察署員などによる研修座談会等々

そのなかで、「高齢者交歓会（演芸会）」についてご紹介します。新潟市で最も古い地域の一つとして下町（しもまち）とも称され、“人情味あふれる”と云われるこの地区は、新潟市の中心に位置しながら過疎化が進んでいます。平成20年度現在、世帯数約1,800世帯、後期高齢者と称される75歳以上の長寿者が594名、敬老会を兼ね数十年来、玄人、半玄人、素人などによる演芸会を開催しています。平成20年度も小学校体育館を会場に、吹奏楽、コーラス、津軽三味線、福引などで午後のひとときを楽しく過ごしました。



## 実 績 ・ 効 果

当地域では、この10年ほどで世帯数が約350世帯減ったにもかかわらず、75歳以上の高齢者は150人以上増えています。

昭和39年の新潟地震では、地下水の浸水による被害を受け、隣近所助け合った教訓を生かすため、普段から近隣住民を確認をすると共に、お互いのコミュニケーションを図る目的で一堂に会することは非常に意義のあることと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

## 鏡淵小学校区コミュニティ協議会

活動名称

世代間交流事業

世帯数

約2,800世帯

## 活 動 内 容

鏡淵小学校区コミュニティ協議会では、世代間の交流を促進するために、さまざまな事業に取り組みました。

## ①早春コンサート（平成20年3月3日）

- コミュニティ協議会と小学校の共催で早春コンサートを開催しました。
- 地元のソプラノ歌手によるコンサートで児童、保護者、教職員、地域の方々600人余りが参加し、盛大に行われました。
- 美しい歌声に、館内が一体になりました。



## ②校区内全域クリーン作戦（平成20年6月17日）

- コミュニティ協議会と小学校の共催で校区内全域の清掃活動を実施しました。
- 小学校児童全員、教職員、地域の方々参加了。
- 地域の環境美化、小学生の社会奉仕活動の実践に大きく寄与しました。



## ③お茶会（平成20年7月17日）

- コミュニティ協議会文教部と小学校の共催でお茶会を開催しました。
- 講師10人を招き、「茶道の極意」を学習しました。
- 実際にお茶を立てて、日本文化の一端を知ることができました。

## ④小学校文化フェスティバル（平成20年11月2日）・⑤ふれあいデー（平成20年11月14日）

- コミュニティ協議会文教部が1ブースを借り、「昔の遊び」を児童に伝えました。（お手玉・ケン玉・コマ・メンコ・竹カエシ・アヤトリなど）
- 児童、保護者、地域の人々の参加で昔の遊びを児童に教え楽しみました。

地域コミュニティ協議会名称

## 新潟地区コミュニティ協議会

活動名称

広報誌「コミ協だより にいがた」発行事業

世帯数

約4,400世帯

## 活動内容

新潟地区コミュニティ協議会は平成19年に発足しました。

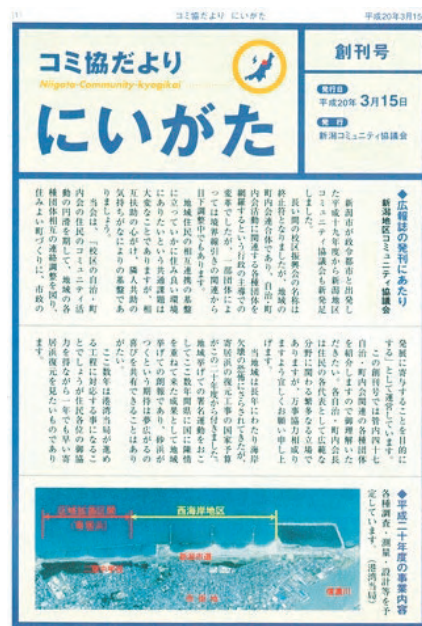
「自治・町内会の住民のコミュニティ活動の円滑を期して、地域の各種団体相互の連絡調整を図り、住みよい町づくりに、市政の発展に寄与する」ことを目的として、地区内の47の自治・町内会や、地域の防災・防犯、子育て・教育、健康・福祉など、分野ごとに組織されている様々な団体が構成されています。

自治・町内会はその名のとおり、住民共同の一番の拠点であり、生活全般における行政機関との連携は多岐にわたりますし、その会長の担う役割は融合調和を図ることです。

また、分野ごとの団体は、各自治・町内会長が地域の皆さんの代表として、各種団体の構成員となり、行政と地域とのパイプの役目を果たしているほか、自主的に活動を行っています。

こういったことを地域の皆さんから知っていただき、今まで以上に自治・町内会や各種団体の活動、そして、コミュニティ協議会の活動に参加していただきたいと思い、平成20年3月に、「コミ協だより にいがた」の創刊号を発行しました。

創刊号には、当コミュニティ協議会の構成団体である各種団体のご紹介、中央区内の小学校区別の人口や児童数、当地域内の長年の懸案事項であった寄居浜の復元のための事業のご紹介のほか、各種団体が行った活動の一部を掲載しました。



## 実績・効果

創刊号は、5,000部発行し、自治・町内会を通じて、地域の皆さんに配布しました。広報誌をご覧いただいたことで、今まで以上にコミュニティ協議会をご理解いただけたものと思います。

今後は、地域の皆さんの声や要望を伝えられるような広報誌となるよう、努めていきたいと思ひます。

地域コミュニティ協議会名称

## 沼垂小学校区コミュニティ協議会

活動名称

栗ノ木川さくら祭り

世帯数

約3,600世帯

## 活動内容

阿賀野川と信濃川の2大河川に囲まれた亀田郷は、雨季には一面に水がたまり湖のように見えますが、地図には書いてない事から「地図にない湖」と呼ばれ、その排水のための唯一の川が栗ノ木川です。建設当時は東洋一の排水機と言われた栗ノ木川排水機場をすぐ近くに抱える地区です。栗ノ木川の舟運で発酵食品などの産業も育ちました。その栗ノ木川は、バイパスとなり舟の代わりに車が流れ大動脈となっていますが、歴史を忘れないためにも地域の河川で桜を愛でる行事を行っています。

小学校の児童、万代高校のカヌー部、水辺の会、地域の人々、PTAなど多くの方々の協力のもとに、各種演芸、フリーマーケット、屋台などで、地域の桜並木を歩き、リバーサイドウォークで健康増進と自然観察、人的交流を行っています。



## 実績・効果

ただ近くを流れている川から、地域の宝、地域の歴史を作った川として、ほんの少しずつですが認識を新たにしてもらっています。また、河川公園として管理者である市や、県から、さまざまな提言と援助で、親水公園として整備され、ドッグランや水面下にあることの海水面表示などをしてもらっています。危なくて近寄らない汚い川から、地域の大事な川として親水面を重視して、地域の宝としての川へと認識を変える一助になっていて、草刈りや、きれいな川にするためにどのように環境を変えていかなければならないか、市民活動としてどのように積極的に関わっていかなければならないか考えてもらう一助になっています。



地域コミュニティ協議会名称

# 亀田小学校区コミュニティ協議会

活動名称

散策ふれあい会

世帯数

約2,800世帯

## 活動内容

亀田小学校区は、310年余続く「三・九の市」が開く市場通りを含む旧亀田町の中心部にあり、昔ながらの商店街や開発された新興住宅地がある地区です。自治会数は23ありますが、一つ一つの自治会の世帯数は100前後と江南区の平均150世帯と比べ、規模は小さめです。

今回紹介するコミュニティ協議会主催の事業「散策ふれあい会」は、平成18年度から実施され、毎年100名以上の住民が参加するイベントです。

内容は、地元の名所までの散策や、名産である梨の畑までウォーキングした後、親睦のためレクリエーションを行い、多世代の交流を図るものです。

校区内の中心部では、高齢化が進んでいるため、普段子どもたちが遊んでいる場面をあまり見なくなってきましたが、この散策会に参加した高齢者からは、「子どもたちの楽しそうな声を聞き、癒された」他の地区から引っ越してきた参加者からは「梨畑があるのは知っていたが、中に入って採るのは初めてで、感動した」など大変好評で、また来年も開催してほしいという声が多くありました。



## 実績・効果

散策会を開催することで、普段あまり話をしない人や初めて会う人と顔見知りになり、他の地区の状況がわかって、地域の一体感が増しました。

普段は地域内を歩くことが少なく、地域を知るよい機会になりました。

地域コミュニティ協議会名称

## 早通小学校区コミュニティ協議会

活動名称

地域を知ろう、いい汗流そう。歩け歩け交流

世帯数

約 1,000 世帯

## 活動内容

早通小学校区は農村地帯と新興住宅地があり、南北に長い地域です。

コミュニティ協議会設立初年度より、夏と秋の2回、地域内をよく知ることを目的に約7キロのコースで毎回コースを変え「歩け歩け交流」を実施しています。午前8時に出発し、11時に交流会場に到着するという時間の設定で、区域内の歴史、文化、農産物の紹介等、地域を散策しながら宝を再発見し、併せて健康増進を図るためウォーキングで汗を流します。参加者は毎回70名を超えています。

コースを決めるにあたり地域住民がそれぞれの地区の歴史や文化に関するガイド役になったり、トイレ休憩所の確保、参加者の体調への気遣いのために自家用車で後部についたり、率先して事業へ参加しました。

毎回作るトン汁の準備に携わる人々も増えて、そこでも交流が図られています。昼食持参の交流会場は持ち寄った漬物の披露や、冷えたビールで乾杯し、まるで持ち寄りパーティのようでした。

ビンゴゲームを最後に行ない、大人も子どもも参加者全員が真剣な顔でカードを持って楽しんでいました。終了し、片づけが終わるとあっという間に2時を回っていました。



## 実績・効果

平成18年、19年と今までに計4回の歩け歩け交流を行ないました。そして、歩いたコースで発見した地域にある特色ある宝物を織り交ぜた、地域マップを作成しました。

マップ作成の財源としては区からの補助に加えて地元個人事業者等からの広告費による協力を得て発行し、地域内の全世帯に配布することができました。

地域住民にとっては初めての地域の地図でもあり、地域をよく知ることができたと大変好評でした。また、平成20年度の歩け歩け交流実施後では、今までは顔は知っていても挨拶を交わしたことが無かったという住民同士が気持ちよく挨拶ができるようになりました。

今後も、より大勢の参加者があり地域住民がお互いに良く知り合える関係づくりに発展していくことを期待しています。

地域コミュニティ協議会名称

# 亀田東小学校区コミュニティ協議会

活動名称

ふれ愛コンサート事業

世帯数

約4,300世帯

## 活動内容

子どもから大人まで楽しめる、肩のこらないコンサートをコンセプトに平成18年度より実施しています。音楽のジャンルは特に問いませんが、第1回、第2回は亀田市民会館において新潟室内合奏団によるクラシックコンサート、第3回はふれ愛プラザ体育館において、視覚障害のバイオリニスト佐藤博志氏、アマチュアバンドのレモンスカッシュ、障がい者とその家族等で構成される混声合唱団ふれ愛により演奏に合わせていっしょに歌うなど、聴衆参加型のコンサートを実施しました。

また、コンサートにさきがけて、会場前で新潟大学歯学部及び歯科医師会の協力による「健口教室」を開催し、来場者等に歯みがき指導等を実施しました。



## 実績・効果

当日の司会進行を地元の小学生、中学生に依頼したり、第3回からはコミュニティ協議会エリア内にあるふれ愛プラザにおいて、新潟県身体障害者団体連合会・新潟県障害者交流センターと共催で開催する等地域に密着した運営を行ってきました。

平成18年度参加者	約250名
平成19年度参加者	約150名
平成20年度参加者	約130名

地域コミュニティ協議会名称

## 大江山地区コミュニティ協議会

活動名称

大江山地区「地域の茶の間」活動

世帯数

約 1,900 世帯

## 活動内容

大江山地区は、近年少子高齢化が進み、普段近所づきあいの少ない高齢者世帯の増加が顕著です。一方で子育てに不安を感じている若い世帯もあり、地域内で仲間づくりや話し合いができる場がもてないものかと感じてきました。

そうした中、江南区社会福祉協議会の指導の下、コミュニティ協議会、老人クラブ、民生児童委員等が中心となり、平成20年5月に「大江山地区地域の茶の間」が立ち上げとなりました。

「地域の茶の間」は、在宅高齢者や障がい者、子育て中の親子などを対象に、様々な交流を通して孤独感の解消や健康増進、子育ての知識交換などを目的としています。活動は小学校区単位で、隔月ごとに会場を替えて、偶数月は丸山小学校区（大江山荘）、奇数月は大淵小学校区（大淵荘）で行っています。

活動内容は、定例活動として「お茶の間について」のビデオ鑑賞、保健師による体操、日帰りバス旅行、警察関係者による防犯・交通安全等の講演などを行っており、お茶を飲みながら、何でも気ままに話し合う時間を大切にしています。

また、世代交流事業として、昔話の語り部の方に協力してもらい、子どもから高齢者まで一緒になって昔話を楽しむ会を開催しています。12月と1月には「餅つき大会」を行い、世代間の交流に努めていきたいと考えています。



## 実績・効果

活動当初から、大江山地区の各自治会の理解・協力を得て、当活動のPRや参加者募集のため、自治会の回覧を利用させてもらっています。また老人クラブの皆さんからも積極的な呼びかけをお願いしています。おかげで定例会にはたくさんの方から参加をいただいています。5月、6月に行われた日帰りバス旅行は延べ100名を超える参加をいただき、大変好評でした。

今後も様々な企画をたて、参加者を増やして更に当活動の交流の輪を広げていきたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

# 新津西部コミュニティ推進協議会

活動名称

「賽の神」による世代間交流事業

世帯数

約4,000世帯

## 活動内容

毎年2月初め新津第三小学校グラウンドにおいて、「賽の神」を開催しています。昔、各地で開催されていた賽の神は場所や要員・費用等の問題で少なくなってきました。私たちは「賽の神」を子どもたちと一緒に覚えてから製作・実施することで、地域に伝わる伝統の継承と世代間の交流及び地域の親睦を図る目的で取り組んでいます。

10月、小学校近くの農家をお願いして稲刈りの終わった田んぼで集めた稲を山積みにし、2月まで乾燥させて藁を作ります。2月第一日曜にいよいよ製作です。子どもたちに鳥羽網を教え縄に藁を編んでいきます。大人たちはグラウンドにて高さ6mの竹の骨組みを組み立てます。内部は3階構造にして藁くずを詰めていき外側に鳥羽を巻き付けて完成です。

2月第二土曜、夜7時点火です。内部からドーンという竹が焼け破裂する音が響きます。煙が渦を巻いて夜空に舞上がり、鳥羽を破った炎が一気に燃え上がります。一緒に作った子どもたちや大人たち、そして300人を超す地域の観衆が炎と熱に感動します。芯竹が焼け落ちると手竹にスルメを付け焼いて食べ、一年の無病無災を祈願します。



## 実績・効果

地域の子どもたちと大人が一緒になり、共同で製作し実施することにより世代間の交流と子どもたちの育成が図られます。また、多くの人たちが点火に集まり、甘酒やふる舞い酒を飲みながら真っ赤な炎と熱の中、語り合いコミュニケーションを図ることができます。

地域に伝わる伝統の継承はもとより、子どもたちの心に良き故郷の思い出を築くことができ、コミュニティ協議会の活動として今一層の充実に努めていきたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

# 満日コミュニティ協議会

活動名称

満日地域「芸能祭・文化祭」ふれあい交流活動

世帯数

約400世帯

## 活動内容

満日小学校区では、公民分館組織がなくなったことから従来の地域公民館活動として実施していた活動の一部をコミュニティ協議会活動として引き継ぎ、地域と学校との協働で、「芸能祭・文化祭」を実施しています。

満日小学校の児童作品展の日程に合わせ「芸能発表並びに作品展示」を行いました。小学校の体育館を利用した芸能祭では、地域の各種踊りの会などが常日頃の練習の成果をこの芸能祭で発表したり、併せて、地域の子どもたちも夏休み期間中に練習に励んだ地域の伝統芸能踊り、また、学校の授業等で取り組んだ踊りや合唱・合奏の音楽発表など子どもたち全員参加で、大人たちと子どもたちの地域交流を行っています。

並びに、同時開催の作品展（文化祭）でも、小学校の教室や廊下を借用し、地域の各種団体（園芸・書道・俳句・生け花など）や個人からの作品を募り力作を出品していただきました。また、フリーマーケットコーナーを設けるなど地域と学校とが一体となったふれあいの交流活動に取り組んでいます。

参加者及び子どもたちの保護者並びに地域の人たちがこの活動を通じ、知り合えるきっかけにもなりますし、さらに学校への理解・協力にもつながる活動であると考えています。



## 実績・効果

子どもたち・大人たちがふれあえる大切な地域交流活動であり、地域の皆さんからも喜ばれ、地域づくりや子どもたちの健全育成活動の一環にもつながっています。

少子・高齢化など、様々な地域での課題はありますが今後も継続し活動することの必要性及び地域の協力の大切さが再認識できます。

子どもたちと大人たちが世代間を超えたふれあいができ、地域の輪を大切にするための活動の充実に今後とも努めていきたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

# 新津東部コミュニティ協議会

活動名称

## 新津島盆踊り大会

世帯数

約3,700世帯

## 活動内容

新津第二小学校区の学区は15町内で構成され、周囲を新津川と能代川に囲まれた地域です。

新津川は市街地中央を流れる唯一の1級河川で、かつて九十九曲がり川の異名をとり、暴れ川として度々水害により地域住民を悩ませてきたことから、激甚災害法の適用により市街地を迂回する能代川バイパス工事が施工され旧川が新津川と名称変更されました。

以来、能代川による水害から東部地区は解放されました。

この河川改修によって水質も向上、能代川に鮭の遡上がふえたことにより「能代川鮭鱒増殖組合」から、平成19年1月鮭卵200粒の提供を受けた新津第二小学校ではこれを孵化させ、地域住民とともに鮭の回帰を願って新津川に放流しました。学校の総合学習の一環でしたが児童はもちろん、地域住民も含め環境整備や自然愛護の意識啓発など不法投棄等に対する意識改革を促しました。

このことがきっかけとなり、新津川と能代川に周囲を囲まれた地域であることから、これを島と見立てて地域と学校が連携して東部地区全体で「新津島盆踊り大会」を開催することになりました。

学校の協力を得ながら、企画は子どもたちが主体となり新津松坂の囃子も地元有志の指導により子どもたちが努めるなど自主性を尊重、子どもたちの手の及ばない櫓の組み立て、提灯の取り付け等を各種団体や地域住民が分担してこれを行ないました。



## 実績・効果

郷土の代表的民謡で盆踊りとしても有名な「新津松坂」を児童や地域の人たちが一緒に輪になって踊ることで世代間の交流が図られ、児童間の友情や、豊かな情操を持つ子どもの育成と地域住民の親睦を深めながら、良好な環境の保全や犯罪のない安心、安全なまちづくりのため「新津島盆踊り大会」を開催。

平成19年は500人、平成20年は700人の参加を得て盛大に実施され、このことがこれまで希薄であった地域としての連帯感の気運醸成にも寄与することになりました。

地域コミュニティ協議会名称

# 新関コミュニティ協議会

活動名称

新関ふれあいまつり

世帯数

約510世帯

## 活動内容

少子化が進む今日、新関地域も例外ではありません。住民の心の拠り所でありました新関中学校が新津第五中学校に統合され、中学校を核とした地域住民のふれあいの場も機会も減ってしまいました。

そんな中、新関コミュニティ協議会は発足と同時に地域の活性化、交流の場をいかに設定するかを模索してきました。例えば、小学校の運動会では「ふれあい運動会」と称し地域住民も参加する運動会、また、住民の交流を兼ねた「史蹟めぐり」、文化祭では「地域の作品展」を開催するなど「ふれあい」を重視してきました。

そして、平成20年度は念願であった「新関ふれあいまつり」を実現することができました。実施日および会場の問題、イベント内容や依頼などさまざまな問題がありました。が役員をはじめ地域住民の熱意で成功裏に終了しました。

主なプログラムは次の通りです。

- ・「よさこいソーラン」（新関地区中学生）・「レクダンス」（楽しい輪）・「歌謡ショー」（歌手：植木利衣）・「歌謡生演奏」（コシヒカリ Bando）・「新津松坂」

当日（8月30日19：00～）は大勢の地域住民が訪れました。新関地域出身の中学生（新津第五中学校）による「よさこいソーラン」は、新関中学校閉校式以来の発表となり、再び大きな感動と元気を与えてくれ、テーマどおり「笑顔いっぱい・元気いっぱい・夢いっぱい」の会場となりました。



## 実績・効果

「コミュニティ協議会」とは何のことか？何をする団体なのか？と、よく尋ねられ、その名前すら知らない人も多いようです。

今回の「新関ふれあいまつり」で、「コミュニティ協議会」の目的や役割が理解され、存在感が増したことを実感しました。10月に実施した「史蹟めぐり」は、参加者が多く大型バスを手配。11月の作品展では、地域のみなさんの力作を見ようと多くの人が訪れ展示室が一段と賑やかとなりました。

今後も「ふれあい」を大切に活動に取り組み、元気のある活力に満ちた新関地域づくりに努めていきたいものです。



地域コミュニティ協議会名称

# 新飯田コミュニティ協議会

活動名称

スポーツ地域交流活動

世帯数

約500世帯

## 活動内容

(フロアカーリング教室・大会)

地域コミュニティ活動として、まず、地域住民からコミュニティの役割を理解してもらう意味でも地域の人たちみんなが対象となるような交流事業を考えた結果、フロアカーリングの名前があたりました。

新潟市としても南区としても普及に力を入れているというフロアカーリングをここ新飯田でも取り入れることで、住民同士や他地区との交流によって元気なまちづくりにつながると考えています。

活動は、教育・文化・スポーツ部会が担当し、主にスポーツ振興推進委員会が指導にあたっています。毎週1回（火曜日）の練習と1年に1回（平成20年11月16日）の大会も定着し、老若男女、どんな人でも同じように楽しめるということで友達同士や同級生・スポーツ少年団・自治会からもチーム・メンバーが集まってきています。

また、他に学校行事や公民館行事の際にもフロアカーリングが取り入れられており、手軽さから地域に浸透してきています。



## 実績・効果

地域の大会だけではなく、他地区との交流大会や区や県の大会等にも参加し、新飯田の元気をアピールすることができたと考えています。特に子どもたちは、スポーツを通して他地区の人たちと刺激あい成長していったと感じました。

また今後、老人会やPTAへもっと普及することで世代を超えた地域交流ができると考えています。

地域コミュニティ協議会名称

## コミュニティ茨曽根

活動名称

2008 茨曽根夏祭り

世帯数

約420世帯

## 活動内容

国道8号周辺に、会社や商店そして住宅が出来て地域の連帯が薄れてきている、茨曽根地区として地区民の参加を目的に「さいの神」「地区民運動会」そして「茨曽根夏祭り」をコミュニティ茨曽根の主催で、実行委員会を設立し開催しています。

参加者は子どもから高齢者まで幅広い世代の参加がありました。

夏祭り実行委員会は自治会、スポーツ委員、小学校PTA、保健会、保育園保護者会、消防団等より約60名の役員を選出し、企画会議を開き夏祭りを行っています。

平成20年の夏祭りは、8月23日14時より特設ステージ作り、テントの組み立てや出店の準備を行い、17時より開催しました。

ステージでは、茨曽根小学校の児童による茨曽根音頭の樽ばやしでの演奏が始まり、トキめき新潟国体のマスコットのトッキキも参加してくれたトッキキ体操、伝統芸能の茨曽根太々神楽舞、フラダンス、生バンドとカラオケ大会、大抽選会等を行い、お店はボランティアによるフランクフルト、焼き鳥、焼ソバ、カキ氷等多数の出店で、行列が出来るほど盛況でした。

夏祭りはアトラクションと出店でたいへん盛り上がり、多くの参加を得てフィナーレはナイアガラの花火大会で終了しました。



茨曽根音頭を演奏する樽太鼓教室の生徒達



トッキキと一緒にトッキキ体操

## 実績・効果

10数年前までは、各地区の春祭り、秋祭りには出店がならび、子どもたちは太鼓を叩き、出店で買い物をして楽しんだものです。

しかし今では、祭りへの地区民の参加も少なくなってきました。そこで、夏祭りをコミュニティ主催で開催し、多くの地区民が一同に会することにより、連帯や親睦を深めることが出来ました。

地域コミュニティ協議会名称

# 庄瀬地域コミュニティ協議会

活動名称

庄瀬農村公園祭り

世帯数

約670世帯

## 活動内容

庄瀬地区のメインイベントとして定着し、平成20年で10回目を迎えました。各団体、有志が集まりアイデアを出し、協力し合って作り上げるお祭りです。

祭りは庄瀬小学校児童による相撲大会から始まります。相撲大会は小学校PTAと庄瀬地区青少年育成協議会が中心となって企画・進行し、夏休み中の練習にはスタッフがボランティアで指導にあたります。また子どもたち手作りの四股名ののぼり旗が公園内に設置されます。

会場内では商工会や有志が出店し焼きそば・焼き鳥・カレーなどを販売します。相撲のあとはステージを中心に「楽しもって広場」とし、地元の保育園児から老人ホームの入所者まで様々な年代の方々による歌や踊りの披露が行なわれ、平成19年からは「にいがた南区総踊り in 庄瀬」と銘打ち区内のよさこいチームからも協力していただき踊りを披露していただいています。また地元商店街の協力によりお楽しみ抽選会も行なっています。

祭りの締めくくりには花火を打ち上げます。地区内外の大勢の方々よりご協力をいただき、年々打ち上げ数も増えています。平成20年はスターメインが7発上がりしました。花火大会の警備には自治会、消防団、交通安全協会、防犯協会の委員が総出であたります。



チビっ子相撲大会



にいがた南区総踊り in 庄瀬

## 実績・効果

庄瀬地区にはなくてはならないイベントとして定着しました。地元住民だけでなく地区外の方、夏休みで帰省した方たちにも楽しんでもらえるような祭りにするべく、さらに発展させていきたいと思っています。

地域コミュニティ協議会名称

# 臼井地区コミュニティ協議会

活動名称

地域でふれ愛まショー

世帯数

約 1,000 世帯

## 活動内容

臼井地区コミュニティ協議会構成団体の一つ、白蓮（しらはす）コミュニティ協議会の活動を紹介します。平成18年5月臼井地区コミュニティ協議会が設立される10年余り以前から限定地域で活動していた組織で、平成7年4月に臼井地区内2つの小学校が統合し廃校となった施設を拠点に独自の地域活動を行っています。

その主要な事業として夏は子どもたちを主体にした夏祭り「白蓮の夕べ」を行い、冬期は高齢者を対象にした新春お楽しみ会「白蓮歌謡ショー」を開催しています。

平成20年で第15回目を迎え特にPRしていない中、地区内外の人たちの多くが参加するようになり盛況を博しています。その他、一年を通しカラオケクラブ、生け花教室なども運営し地域のふれ合いの場として取り組んでいます。



小中学校の子どもたちを主体にPTA、保健会などがスタッフとなり、毎年8月第1土曜日に開催しています。



地元カラオケクラブとプロの歌手を招いて毎年2月の第1日曜日を開催日としています。

## 実績・効果

この活動にかかる主要財源は、廃校後に整備された地区公園管理委託金（新潟市）を得た中から有効活用しています。地区自治会からの負担等に頼らず自主的な運営に努めていますが、当面の問題としてスタッフの担い手不足という課題はあるものの自主独立化していることで評価され、地域に根ざしたイベントとして広く受け入れられています。

地域コミュニティ協議会名称

## 大郷地区コミュニティ協議会

活動名称

農産物を活用した地区民地域交流活動

世帯数

約500世帯

## 活動内容

## 大郷地区農産物品評会

大郷地区は、果樹・野菜の栽培がとても盛んな場所です。例えば、梨・ぶどう・トマトなど。

そこで、年に一度、地域の皆さんより自宅で育てた農産物を持って集まって頂き、品評会・即売会を開催しています。

毎年、とても好評で、販売では時間前の予約が殺到します。一般的な売り場等では見られない大きい梨や真っ赤なトマト、みずみずしい白菜など多数出品されています。平成20年度は試食コーナーを設けました。

見に来られる人たちは、子どもからお年寄りまで幅広い世代です。出品農産物を見ていろんな話ができるとてもよい交流の場になっています。



## 実績・効果

農産物によって、地区民の世代を超えた交流の場になっていますし、地区全体の元気につながっていると考えています。

地域コミュニティ協議会名称

# 鷺巻地区コミュニティ協議会

活動名称

世代間交流と地域の伝統行事継承活動

世帯数

約660世帯

## 活動内容

鷺巻地区は、特色ある伝統行事が少ない地域であり、また、子どもたちの地域参加が少ないこともあって、子どもたちが、地域の伝統行事や暮らしにふれ合う場づくりに努めています。

その一つが、小学生の「宮のぼりばやしクラブ」活動です。かつて笛と太鼓のお囃子で神社のお祭りが行われていた「宮のぼり」の地域の伝統行事を長老たちの指導で子どもたちが復活。今では、各お祭りに実際に参加して演奏しながら練り歩いています。子どもたちの頑張る姿が地区民に歓迎されています。

また、地域の高齢者が、小学生に笹団子作りを教えて、地域で育った食文化を通じて世代間交流を行っています。花いっぱい活動では、保育園児からも花の植え込みに参加してもらい、幼いながらも体験を通じて心に残るものを期待しています。



## 実績・効果

「宮のぼりばやし」の先輩は大学生になっており、参加してみたいとの声もあります。指導者の高齢化もありますが、継続したいものです。

コミュニティ協議会を結成して間もないですが、世代間交流を行いながら、地域づくり意識を一步步醸成していきたいと思えます。

地域コミュニティ協議会名称

## 根岸地域コミュニティ協議会

活動名称

地域活性化事業 地域交流イベント(あやめまつり)

世帯数

約 1,000 世帯

## 活動内容

現在、地域生活センター脇に植えられているあやめは平成11年7月、根岸道路にある桜と共にあやめを根岸の観光資源とし、地域農業の振興と観光的景観、環境整備等を行い根岸地区の新たな特産・シンボルとして地区の活性化になれば、との思いから地域の皆さんの手により新発田五十公野公園より株分けして植えられたものです。

体育系事業と文化系事業両方の要素が含まれた総合的な事業とし、老若男女問わず、幅広い年齢層においても楽しむことができるまつりとし「1年に1度の根岸の大祭」第1回根岸地区あやめまつりを平成14年6月に開催しました。来場者が増えるにつれ、あやめまつりの規模も大きくなってきています。

あやめまつりでは、根岸小学校トランペット鼓隊、白根北中学校吹奏楽部による演奏でオープニングを飾り、自治会等による縁日出店、ステージイベント、自治会親善スポーツ大会などを行っています。イベント同日、犯罪防止をPRするパンフレット配布やAED講習会、災害時焚きだし訓練など防犯防災に関するイベントも行っています。

平成20年6月、第7回を迎えたあやめまつりは、来場者も増え約1,000人が訪れました。



あやめまつりのオープニングを飾る根岸小学校トランペット鼓隊



あやめ園にたなびく鯉のぼり

## 実績・効果

今年度は、新たな企画としあやめ園内に鯉のぼりを飾り来場者の目を惹きました。イベント以外の日にもたくさんの方があやめ園を訪れ、根岸地区の観光場所のひとつとなりました。毎年、イベント内容に変化を持たせながら、多くの住民から参加してもらえる魅力ある地域づくりを目指しています。

また、地区民と共にあやめを育てることで地域交流・地域活性化に努めていきたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

# 味方地区コミュニティ協議会

活動名称

味方地区ふるさと納涼まつり

世帯数

約 1,100 世帯

## 活動内容

味方地区コミュニティ協議会は、地区住民の自治意識の高揚を図り、コミュニティ活動を通じて、思いやりの心を育て、連帯感を持った住みよい環境づくりを推進することを目的に各種事業をおこなっています。

特にコミュニティ協議会が関わる事業のひとつ「味方地区ふるさと納涼まつり」は、味方地区の一大イベントとして味方地域全域を対象として、地域の市民が一堂に会し、まつりを通してコミュニケーションを深めることを目的に実施しています。

味方地区全域のまつりとして平成8年から始まり、味方地区野球場の広い芝生の上を会場に夏のひとときを満喫できる地域のまつりとして定着しており、平成18年度から味方地区コミュニティ協議会を主体とする実行委員会の主催で開催しています。

まつりは、焼きそばや農産物の販売などさまざまな出店販売の催し、特設ステージでの保育園児や地元チームなどによるよさこい演舞、歌謡ショーなどの盛りだくさんの内容となっており、このイベントの企画や運営には、コミュニティ協議会を組織する各種団体が積極的に参画し、まつりを盛り上げています。



## 実績・効果

区制移行後においても南区内の各種団体からもステージイベントに参加してもらっており、南区内の一体感醸成にも結びついています。また、毎年楽しみにしている方々も多く南区内外からの来場者もあり、平成20年度は7,000人を超す来場者がありました。各イベントへの参加や観覧にあらゆる年代の方が来場され、まつりを通して交流やふれあいが活発におこなわれ、地域の皆さんのつながりもより高まっています。



地域コミュニティ協議会名称

## 月潟コミュニティ協議会

活動名称

北海道月形町&amp;新潟市月潟地区児童交流会

世帯数

約 1,020 世帯

## 活動内容

平成2年より、友好姉妹町村の北海道月形町と新潟市月潟地区の5、6年生児童が隔年ごとに訪問交流をしています。訪問先では、それぞれ2,3名に分かれホームステイを経験します。また、翌日の児童交流会では、学校紹介、マーチング演奏、ゲーム・レクリエーション、昼食会、名刺交換などを行っています。これらの体験活動を通して、それぞれの地域の特性や特産物、地理や歴史について学習し、集団行動をすることにより連帯感を習得しています。

この交流会を実施するにあたり、月潟コミュニティ協議会・月潟小学校PTAにより実行委員会を組織して、ホームステイ先の確保、交流会の企画・進行、保護者への説明などを行っています。まさに、手作りの交流会となっています。



到着式「月形町のみなさん、ようこそ！」ちょっと緊張気味…



凧揚げ体験の様子「それ、走れー！」

## 実績・効果

交流事業も19年目になりました。平成20年度の交流会では白根大凧合戦協会の皆様の協力で、凧揚げ体験を実施しました。ホームステイや、地元の子どもたちでもなかなかできない体験をして、貴重な思い出となったことと思います。たくさんの友達ができ、その後も子ども同士で交流が続いているようです。

また、実行委員会が中心となり、交流会の思い出や感想をまとめた文集も作成しました。児童たちから、楽しかった様子がうかがえる感想文が寄せられました。

地域コミュニティ協議会名称

# 内野コミュニティ協議会

活動名称

内野地区市民大運動会

世帯数

約4,480世帯

## 活動内容

当初は西地区公民館、その後内野地区自治連絡協議会の主催で行ってきたものを、23回目を迎えた平成20年度から当協議会の主催とし、西地区公民館や地域内外の団体等の協力を得て開催いたしました。

「広げよう友情の輪 高めよう地域の和」のスローガンのもと、15自治会に新潟大学の留学生チームを加えた16チームの老若男女約700名が参加しました。

内野小学校ブラスバンド部の演奏にのって、各チームの入場行進から始まり、年代別リレーなど11競技を実施しました。

日頃の運動不足を補う中高年の方、元気いっぱいの小学生など、チームのために一生懸命頑張る選手、その選手を一生懸命応援する参加者の姿は、チームの一体感・地域の一体感そのもので、すばらしい光景でした。

また、競技のほかに、昼食時には昔から伝わる「内野盆踊り」を新潟大学の協力を得て実施したところ、予想を上回る大勢の踊り子の輪ができ大変好評でした。



## 実績・効果

地域住民約700人が一同に集まり、楽しい時間を共有することで、地域の融和・地域の一体感が図られたほか、健康増進にも一役買っています。

地域挙げての一大イベントとして定着しており、今後も継続していきたいと思っております。

地域コミュニティ協議会名称

## コミュニティ中野小屋

活動名称

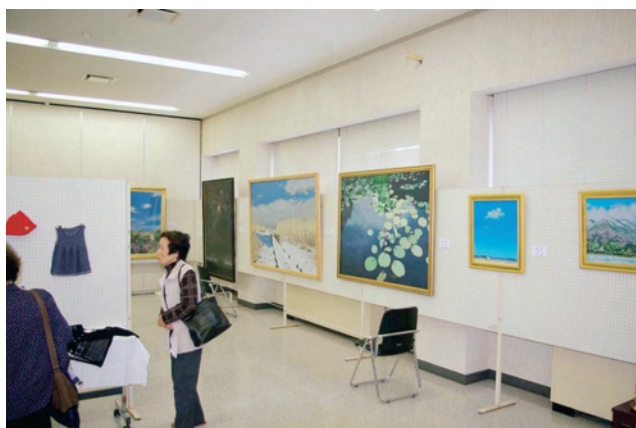
瑞穂祭

世帯数

約 1,000 世帯

## 活動内容

中野小屋地区では、世代間及び地域間交流を目的に文化祭『瑞穂祭』を立ち上げて、平成20年で4回目を迎えました。そもそも瑞穂祭は、中野小屋中学校の伝統ある文化祭として行われていたもので、その文化祭にコミュニティ中野小屋が参加する形をとりました。中学校のスタイルを崩さず開催することに苦慮しましたが、中学校に隣接するJA新潟みらい中野小屋支店様の協力により、会場を中学校とJAの2会場とすることで解消しました。毎年10月の最終日曜日に開催し、JA会場の屋内では笠木小学校、小瀬小学校の児童の作品、地域の皆さんの絵や写真、書、生け花、手芸民芸作品などの展示、屋外では豚汁、もち、模擬店などの無料サービスや、菊会による菊の花の展示、JAによる農産物や花木の即売会などが行われております。中学校の会場では、中学生による伝統の文化祭が今まで通りに行われます。中学生の昼食は、JA会場で準備してあるので、昼食の休み時間を利用し地域交流を行っています。毎回、それぞれ500食分の無料サービスを行っていますが、好評で全て完食してしまうほどの盛況ぶりです。



## 実績・効果

中野小屋地区ではこの文化祭の他に、『親子三代ふれあい会』という行事が毎年行われます。こちらも目的は一緒で、総動員数600名以上が参加します。よって瑞穂祭による効果か一概には言えませんが、この地域の人たちは、「知りあう」、「ふれあう」、そういう交流の機会が多いせいも、世代間での屈託のない会話や、挨拶ができていると思います。

今後も途切れることのないよう、行っていこうと思っていますが、10代後半から20代前半の若者たちが、もっと参加してくれるように創意工夫していきたいと思っています。

地域コミュニティ協議会名称

## コミュニティ佐潟

活動名称

佐潟まつり「こどもとうろう」

世帯数

約 1,850 世帯

## 活動内容

コミュニティ佐潟は、赤塚地区、みずき野地区と四ツ郷屋地区の3地区で構成されています。

コミュニティ佐潟の設立により、地域の一体感の醸成を図るため「佐潟まつり（旧称:赤塚まつり）」の協賛団体として、「赤塚地区自治連絡協議会」だけでなく、新たに「みずき野地区自治連絡協議会」と「四ツ郷屋自治会」も参加するようになりました。

まつりのイベントの一つとして、「こどもとうろう」を実施しました。「こどもとうろう」には、地元の赤塚小学校、木山小学校、赤塚中学校の児童、生徒約500名が参加し、将来の夢、想いを手作りとうろうに描いてもらい、赤塚消防団の協力を得て、まつり会場の佐潟公園に並べて点灯しました。とうろう作りには、子どもたちも参加しました。

平成20年は、「KODOMOラムサール国際湿地交流 in 新潟」に参加した子どもたちにも描いてもらい、約600のとうろうを並べました。



## 実績・効果

「こどもとうろう」は、とうろうを佐潟の湖面に浮かべる「万燈籠」と併せて行なわれました。とうろうを描いた児童、生徒やその家族も含め多くの方が、見に来てくれました。

ただ、まつりのボランティアが不足しているのが現状で、解決策を考えていく必要があります。

地域コミュニティ協議会名称

# 青山小学校区コミュニティ協議会

活動名称

有明ふれあい夏まつり

世帯数

約3,240世帯

## 活動内容

青山小学校区コミュニティ協議会は、有明地区と浦山地区が一緒になって、平成18年8月に設立され、従来それぞれの地域で行われてきた行事も、徐々に地区の人々が一体となって活動が行われるようになりました。

平成20年度は、まず5月31日（土）に浦山地区が中心となり、有明地区も参加し、関屋分水路に「西区・セキヤ分水」の花文字植栽と「とん汁お楽しみ朝食会」を行いました。

また8月23日（土）には、有明福祉タウンと有明地区自治協議会、青山地区民生児童委員協議会、青山小学校区コミュニティ協議会の共催で、浦山地区も参加して、「第10回有明ふれあい夏まつり」が行われました。

お祭りステージでは、開会式の後、施設の方々の「鬼太鼓」が始まり、新潟国体のマスコットキャラクターのトッキッキも駆けつけて、子どもたちも大喜びでした。その後、保育園の園児のお遊戯、児童センターの児童による踊り、有明ハイツ音楽クラブの演奏と続き、綿あめ、やきそば、ヨーヨー、フリーマーケットでのお買い物が始まりました。

日が暮れて、やぐらのまわりの盆踊り、フィナーレの花火大会と、1,500人の地域住民が一緒になって夏を楽しみました。



## 実績・効果

行事開催までの計画会議、ステージ作りからテント張り、その他の会場設営及び運営に至るまで、地域住民・関係団体皆さんの連携・協力が行事成功の喜びをもたらし、より一層地域の結び付きを深めることができた有意義な行事でした。

地域コミュニティ協議会名称

# 小針小学校区コミュニティ協議会

活動名称

地域ふれあいサロン「七夕祭り」

世帯数

約4,500世帯

## 活動内容

小針小学校区は、JR小針駅・青山駅を中心に、小針浜から西川流域に及ぶ地域です。概ね半世紀くらいの間に、田野は、主として住宅地域として急速な変貌を遂げました。我が国の少子化が進み児童生徒が急減する中で、小針小・中学校ともに児童・生徒数が増加傾向を続けており、小針中学校は、県内最大規模数となるなど特異な現象も見られます。一方で、高齢者世帯も増加傾向にあります。

こうした中で誕生した「地域ふれあいサロン」は、小針・青山公民館を活動拠点として、幼児・児童・高齢者等の“居場所づくり”を目指して活動しています。コミュニティ協議会の誕生を契機に、平成19年度から七夕祭りについて、両組織の共催となり、スケールアップと内容の一層の充実が図られました。

平成20年度は、7月5日（土）に開催されました。当初小さな笹枝で楽しんでいたものが、今では、天井に届くような太くて立派な笹竹が飾られました。短冊・カラーペン・飲み物・お菓子等々、子どもたちが楽しめそうなものを、会員で知恵を出し合い準備しました。

例年30名程度が参加するプランで実施していましたが、今年は、70名ほどの参加があり、大いに盛り上がりました。特にお父さんたちや小針中学校音楽部の参加で一層楽しい会になりました。

一生懸命短冊に願い事を書いている子どもたちは、本当に可愛いです。子どもたちの歓声が響き、沢山の短冊や飾り物で、笹竹が見事に華やかになり、七夕祭りは、幸せで一杯になりました。



## 実績・効果

幼児・児童・生徒・高齢者・父母など世代間交流が楽しく、幸せな雰囲気の中で進みました。地域の特性に即した課題解決へ、小さいけれども確かな歩みが見られました。

地域コミュニティ協議会名称

# 松野尾地域コミュニティ協議会

活動名称

「いろはの里」盆踊り大会

世帯数

約600世帯

## 活動内容

かつて松野尾地域では、地域固有の「はやおけさ」が伝統芸能として存在していましたが、近年、その歌や踊りを行うことがなくなっていました。地域ではコミュニティ協議会の設立を機に「はやおけさ」を地域のたからとして認識し、かつての地域の恒例行事であった「盆踊り」を復活させようとの機運が高まりました。

事業については、「地元学地域のたから発掘活用事業」を活用して、①「はやおけさ」の伝承 ②盆踊りの復活 ③世代間交流 の3点を柱に計画実施しました。

松野尾地域は古くから「良寛」様との交流があり、地域内の旧家には良寛書「いろは」「一二三」などが残されています。盆踊りは、この「いろは」を冠して、「いろはの里で盆踊り」としました。殺伐とした現代において良寛和尚の説かれた天地人、万物に対する「やさしさ・いとおしさ」を取りもどす良い機会になればと、地域住民総参加の姿勢で取り組みました。

実行体制としてコミュニティ協議会の6部会（安全部会、福祉部会、子供部会、文化・スポーツ部会、生活環境部会、産業部会）が参画しました。平成20年は、お盆の帰省客も参加できるようにと8月14日に予定しました。



## 実績・効果

伝統文化の継承を通じて地域全体の連帯感や協働の醸成を図り、地域の活性化と癒しのある「松野尾づくり」を全体で推進しました。計画当日の8月14日はあいにくの雨模様であり、事業は翌日に延期になりました。その結果、参加者が予定より少なく、広報活動をもっと積極的にとの反省もありましたが、小学校の子供部会や保育園の保護者、外国からの研修生等の積極的な参加があり、心強く感じました。

毎年同じ日時で開催できるよう、また高齢化してきている「囃し手」部門等の育成強化が望まれます。

地域コミュニティ協議会名称

# 岩室地域コミュニティ協議会

活動名称

自然との共生「蛍と野外コンサート」

世帯数

約3,000世帯

## 活動内容

岩室温泉の丸小山公園周辺は、自然体系の豊かな地域として知られ、四季を通して多くの家族連れなどが訪れる姿が見られます。また、温泉街から徒歩で数分の所にある弘川では、毎年6月上旬から源氏蛍の乱舞が楽しめることでも良く知られています。

こうしたことから、この恵まれた自然環境の中で音楽や蛍の鑑賞を通して喜びや感動を大勢の方から味わっていただくこと、毎年「蛍と野外コンサート」を開催し、丸小山に響き渡るステキな音色を楽しんでいます。今では地区内外から約800～1,000名が訪れる大きなイベントとなり、地域活性化に一役かっています。

しかし、これだけに終わらないのが岩室の地域力。

〈自然との共生〉をうたう中で、地域のボランティアや婦人会が中心となって「車椅子ボランティア」が組み込まれていることが、この「蛍と野外コンサート」の大きな特徴ともなっています。岩室には、「温泉病院」や「かたくりの里」など病院や施設がまとまっていますが、入所されている方々にも是非この感動を味わっていただきたいと、当日は80名からの地域ボランティアが一斉に協力体制を組み、車椅子を押して一緒に音楽に親しみ、多くの患者さんから楽しんでいただいています。

こうして、地域の一人ひとりの「思いやり」の心も手伝って続く岩室の「蛍と野外コンサート」です。



## 実績・効果

蛍の生息に適した自然環境の中で乱舞する見事な蛍の世界と併せて、丸小山に響き渡る音色に魅了され、地区内外から年々多くの観客を迎えるようになっていきます。

このように、岩室に残る素晴らしい自然環境を多くの方々に知っていただく機会につながっていると考えます。

また、「車椅子ボランティア」等が関わることで、地域の結束力が高まり自分たちの住む地域を改めて認識することにもつながっているようです。



地域コミュニティ協議会名称

# 潟東地域コミュニティ協議会

活動名称

かもん！カモねぎまつり

世帯数

約 1,500 世帯

## 活動内容

かつて、鑑潟ありし頃より潟東地域においては、先人たちによりカモ猟と漁業が盛んに行われ、現在も冬場になるとカモ猟が受け継がれており、捕れた野ガモをつかってのカモ汁の紹介と、潟東地域の特産品の販売、誘客を目的にしたユニークなイベント「かもん！カモねぎまつり」が毎年12月第一日曜日に開催され、地域おこしの一環を果たしています。

平成18年に「潟東地域コミュニティ協議会」が発足し、このイベントを引き継ぐこととなり協議をかさねた結果、地域の各種団体に呼びかけて実行委員会を立ち上げ企画、運営にあたりました。そして、実行委員会に5つの部会を設け役割分担を決めました。

☆総務部会 総括、宣伝、チケット販売  
他

☆カモねぎレストラン部会  
カモ汁2,000食の下ごしらえ、  
煮込み、配膳 他

☆催しもの部会 カモ猟の実演（寸劇）、  
ラジコンヘリの展示 他

☆販売部会 地元産の農産品販売 他

☆フリーマーケット部会 出展者の募集 他

各部会では、イベントを盛り上げるための話し合いがなされ、当日に向けた準備も進み、1人でも多くの方々に参加をいただき潟東の「かもん！カモねぎまつり」を盛り上げていくため、スタッフ一同一丸となって取り組みました。



## 実績・効果

今では、潟東といえば「カモねぎまつり」だといわれ、多くの方々からイベントに参加をいただき地域の人々との交流が図られています。

これからは、地域の連帯感を強め、よりいっそう農業を主体とした地域づくりをめざします。

## お問い合わせ先

掲載されている活動事例・地域コミュニティ協議会のお問い合わせは、各区役所担当課へお願いします。

北区役所	政策企画課	電話 025-387-1000 (代表)
東区役所	政策企画課	電話 025-272-1000 (代表)
中央区役所	政策企画課	電話 025-223-1000 (代表)
江南区役所	政策企画課	電話 025-383-1000 (代表)
秋葉区役所	政策企画課	電話 0250-23-1000 (代表)
南区役所	政策企画課	電話 025-373-1000 (代表)
西区役所	政策企画課	電話 025-268-1000 (代表)
西蒲区役所	政策企画課	電話 0256-73-1000 (代表)

※平成21年4月から、政策企画課は「地域課」へ課名変更予定です。

## 地域コミュニティ協議会活動事例集

---

平成 21 年 2 月

新潟市

政策企画部区政・コミュニティ推進課

〒 951 - 8550

新潟市中央区学校町通一番町 602 番地 1

TEL 025 - 228 - 1000(代表)

---



花開く活力、  
広がる笑顔、  
政令市新潟

